

授 業 概 要

SYLLABUS

2018

平成30年度



豊岡短期大学

目 次

カリキュラム一覧

• 総合科目	1
• 専門教育科目	25
教科専門科目	26
教職専門科目	80

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
総 合 科 目							
生 命 倫 理	○				永 井 秀 和	2	
女 性 と 文 化	○				西 村 豊	4	
憲 法	○				野 畑 健太郎	6	
環 境 と 人 間	○				西 村 重 喜	8	
情報リテラシーと処理技術	○	○			西村重・大塚	10	
健 康 科 学		○			今 野 賛	12	
ス ポ ー ツ (実 技)	○	○			今 野 賛	14	
キ ャ リ ア ア ッ プ I	○				担 当 教 員	16	
キ ャ リ ア ア ッ プ II		○			担 当 教 員	18	別に定める授業科目
キ ャ リ ア ア ッ プ III			○		担 当 教 員	20	別に定める授業科目
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	○				西 村 豊	22	別に定める授業科目

◎総合科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
生命倫理	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	永井秀和
授業概要	人間を主人公とした生命科学を多角的な視点から講義し、生命に関わる人間の行為について学生諸君と共に考察します。			
授業科目の目的	生命現象の奥に隠されている自然の法則を理解し、生命に対する人間の責任ある関わり方について、学生諸君自身の考えを表現できるようになることを目的とします。			
学習成果	生命の在り方、生命に対する人間の責任あるかわり方について、自らの言葉で考えを述べるができるようになります。			
テキスト				
参考書	基礎から学ぶ生命倫理学／村上喜良／勁草書房／2,700円 生命倫理と医療倫理／伏木信次／金芳堂／2,500円			
成績評価基準	授業態度20%、レポート10%、試験70%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	生命現象の基本的な仕組みを理解するとともに、生命の尊さと真摯に向き合い受講することを望んでいます。			
その他				

授業内容進行表

1 回	生きることの証と生命（生命と物質）
2 回	生命倫理とは何か1 渾沌と秩序・欲望と理性
3 回	生命倫理とは何か2 生命倫理とエコロジーや医療との関係
4 回	生命倫理とは1 生殖生理（生む生まないは女性の権利か）
5 回	生命倫理とは2 生殖補助技術（人工授精・受精卵移植・代理母）
6 回	生命倫理とは3 遺伝子操作
7 回	生命倫理とは4 脳死と臓器移植
8 回	生命倫理とは5 安楽死と尊厳死
9 回	生命倫理と宗教との関係1
10 回	生命倫理と宗教との関係2
11 回	自己存在と自己決定
12 回	生命の誕生について考える 生まれること・生むこと
13 回	死について考える1
14 回	死について考える2
15 回	医療倫理
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
女性と文化	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	西 村 豊
授 業 概 要	<p>現在、政府は一億総活躍社会の実現に向けた働き方改革に取り組んでいます。これは、男女共同参画社会の実現が叫ばれ、社会における女性の果たすべき役割が大きくなる中で、女性も男性も、それぞれが納得のいく働き方ができる社会の実現を目指したものです。しかしながら、依然として男性中心社会であり、多くの女性が社会においてどのように生き、どのような役割を果たしていけばいいのか悩み、迷っているのが現実です。女性が築いてきた文化の視点から、社会を見つめ直し、自分の将来のあり方を考察していきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>女性としての人権、地位が認められるようになったと言われるものの、実際には男女差別と思われる状況が存在します。過去の歴史から学び、その知識や認識をふまえた上で、現代社会に生きる女性を俯瞰的に捉える視点や問題意識を持って、自らの生き方を考えることができるようになることを目的とします。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の人権、社会的地位など過去の歴史、及び身近な人たちからのこれまでの歴史を学び、女性を理解できるようにします。 2. 具体的な女性を取り上げ、その生き方から学ぶ点を見出し、女性の理解について考えることができるようにします。 3. 現代社会の女性が抱える問題点を認識し、現代社会に生きる女性の生き方を探求することができるようにします。 			
テ キ ス ト	<p>特に指定せず、教材プリントを配付します。</p>			
参 考 書	<p>女性学入門／杉本貴代栄編著／ミネルヴァ書房／2,700円 女性の品格／坂東真理子／PHP 新書／777円 男女共同参画白書平成29年版／内閣府男女共同参画局 ニッポン一億総活躍プラン／内閣官房一億総活躍推進室</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>定期試験 60%、課題・発表・授業態度 40%で総合的に評価します。</p>			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ ト	<p>本授業では、これまで女性が抱えてきた問題点を、講義や調査・意見発表等で展開します。日頃からニュース等を見て、世の中の出来事に興味・関心を持つようになしてください。 より良い学びのために、予習・復習を心掛けてください。</p>			
の そ の 他				

授業内容進行表

1 回	<女性と歴史1> 古代 中世 近世
2 回	<女性と歴史2> 明治 大正 戦後
3 回	<平等とは> 男女共同参画社会 ニッポン一億総活躍プラン・働き方改革実現会議
4 回	<家族とは何か> なぜ人間は家族をつくるのか 近代家族 家族のゆくえ
5 回	<結婚1> 結婚観 配偶者
6 回	<結婚2> 日本の婚姻率 結婚しない女性・男性
7 回	<子育て1> 誰が担うのか、担ってきたか
8 回	<子育て2> 子育て政策と今後について
9 回	<身近な女性の生き方から学ぶ1> レポート作成
10 回	<身近な女性の生き方から学ぶ2> レポート作成
11 回	<身近な女性の生き方から学ぶ3> 発表
12 回	<家庭生活> 家事・地域とのふれあい
13 回	<困難を抱える女性> 貧困 暴力(男性の子ども・女性に対する) 性
14 回	<高齢者問題> 高齢者と介護 誰が担うのか、担ってきたのか
15 回	<まとめ> 女性の歴史と自分の将来像
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
憲法	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野畑健太郎
授業概要	<p>日本国憲法の全体像が理解できるように講義していきます。日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって、日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかります。日本国憲法上の重要条文については、判例を参照しつつ通説的見解に基づいた偏りのない解釈と丁寧な解説を心掛けます。</p> <p>本授業では、憲法への理解を深め、親しみがわくよう、「パワーポイント」によるビジュアルな要素を取り入れた講義を行います。講義内容を理解する一助として、毎回、授業内容に関するプリントを配布します。毎回、授業内容についての確認テストを実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>日本国憲法の基本原理と具体的な条文とを架橋する体系的な説明を行うことによって、日本国憲法の基本的事項・重要事項の理解をはかり、日本国憲法の主な特徴および人権保障・統治構造上の基本的事項について、他人への説明を可能とするレベルの理解度に到達することを目指します。</p> <p>日本国憲法の授業を通して、専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人ないし他人の人権を思いやる心を培い、憲法を頂点とする法社会や憲法を基幹とする政治・社会制度に対する深い洞察力を身につけることを本授業科目の目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「憲法」の基本観念と「人権」の概念について概要を説明できるようにします。 2. 日本国憲法の基本原理と人権保障・統治構造の概要を説明できるようにします。 3. 日本国憲法の基本的な条文について通説・判例の見解を説明できるようにします。 			
テキスト	現代憲法概説／上田正一／嵯峨野書院／3,300円			
参考書	憲法（第六版）／芦部信喜(高橋和之補訂)／岩波書店／3,348円			
成績評価基準	定期試験70%、平常点30%(受講態度10%、確認テスト20%)で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>憲法の受講者がよく口にするのが、憲法は「とっつきやすいが、難しい」、「よくわからない」、「好きになれない」といった言葉です。確かに「日本国憲法」は、社会科の教科書にも出てくる基本学習項目で、「とっつきやすい」科目といえますが、憲法は間口が広いとともに、法律科目の中でも、特に奥行きが深い科目です。憲法に関する多量で多様な事柄に接したとき、何を、どのように学べばよいのか、戸惑いを感じる受講者が少なくないと思います。</p> <p>そこで、受講者が憲法を理解し、少しでも憲法への親しみがわくよう、ビジュアルな要素を取り入れたパワーポイントによる授業を試み、理解の一助となるよう、毎回、パワーポイントの内容をプリント化したものを配付します。授業はテキストに沿って進めていきますので、テキストによる予習が可能であり、自主的な予習が望まれます。受講者は、憲法の授業を初めのうちは難しいと感じるかもしれませんが、授業に出席し、授業に専念すれば、徐々に分かるようになってくると思います。</p>			
その他	受講者の理解度に応じて授業を進めるため、予定した15回の授業内容と進度にずれが生じる場合があることを了解してください。受講者を置き去りにした授業はしないように心掛けていきます。			

授業内容進行表

1 回	<憲法と立憲主義> 1.憲法とは何か：憲法の意味／憲法の分類／憲法の特質 2.立憲主義、近代憲法、現代憲法
2 回	<日本憲法史> 1.明治憲法：特質 2.日本国憲法：憲法の制定／憲法制定の法理 <日本国憲法の構成と基本原理> 1.日本国憲法の構成 2.日本国憲法の基本原則
3 回	<象徴天皇制> 1.天皇の地位 2.天皇の権能 3.天皇の行為の種類 <平和主義の原理> 1.平和主義と平和的生存権 2.憲法9条の解釈と運用
4 回	<人権宣言の歴史> 1.近代的人権宣言の確立・歴史 2.明治憲法と日本国憲法の人権保障 <人権の観念とその類型> 1.人権の観念 2.人権の類型 3.新しい人権の問題
5 回	<人権の享有主体> 1.国民 2.未成年者 3.天皇・皇族 4.法人 5.外国人 <人権保障の限界と「公共の福祉」> 1.概念 2.権利制約の論理 <特別の法律関係にある者の人権> 1.公務員の人権 2.受刑者等
6 回	<私人間における人権の保障と限界> 1.学説 2.判例 <包括的基本権(1)> 1.生命、自由および幸福追求権の位置と性格 2.思想的源 3.個人の尊重・幸福追求権の法的性格
7 回	<包括的基本権(2)> 1.プライバシーの権利 2.名誉権 3.環境権 4.自己決定権 <法の下での平等> 1.歴史 2.意味 3.平等原則 4.不合理な差別の禁止 5.貴族制度の廃止
8 回	<精神的自由権(1)> 1.思想・良心の自由 2.信教の自由 3.国家と宗教の分離 4.学問の自由 5.大学の自治 <精神的自由権(2)> [表現の自由(1)] 1.規制 2.形態と内容 3.報道・取材の自由
9 回	<精神的自由権(3)> [表現の自由(2)] 1.性的表現の自由 2.名誉毀損表現 3.知る権利・アクセス権 4.集会・結社の自由 5.通信の秘密 <人身の自由(1)> 1.奴隷的拘束・苦役からの自由 2.適正手続の保障
10 回	<人身の自由(2)> 1.被疑者の権利 2.被告人の権利 3.拷問・虐待の禁止 <経済的自由権> 1.居住・移転の自由 2.職業選択の自由 3.外国移住・国籍離脱の自由 4.財産権
11 回	<社会権(1)> 1.生存権 2.生存権の法的性格 3.生存権の内容 4.環境権の憲法的根拠 5.環境権の内容と裁判例 6.教育を受ける権利の意義 7.教育を受ける権利の法的性格
12 回	<社会権(2)> 1.教育を受ける権利の内容 2.労働権の性格 3.労働権の内容 4.労働基準の法定 5.児童酷使の禁止 6.労働基本権の性格
13 回	<社会権(3)> 1.労働基本権の内容と限界 <国務請求権> 1.裁判を受ける権利 2.国家賠償権 3.刑事補償請求権 4.請願権
14 回	<参政権> 1.公務員の選定・罷免権 <国民の義務> 1.教育の義務 2.勤労の義務 3.納税の義務
15 回	<統治機構> 1.国会 2.内閣 3.裁判所 <財政・地方自治> 1.財政の基本原則 2.地方自治の本旨
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
環境と人間	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	西村重喜
授業概要	<p>幼児期の教育において、自然や動植物とのかかわりが欠かせません。自然や動植物とのかかわりは、その対象を命あるものとしてとらえ、心を動かし、多くのことに気付く経験につながります。本授業では、「自然や動植物」と関わろうとする幼児を支援するために必要な「自然や動植物」及び「自然環境」に関する基礎知識を習得することを目指します。</p>			
授業科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員として求められる環境分野の基礎的な知識を習得し、身近な環境に対する理解を深めます。 ・雑木林や水田など身近な自然環境の特徴や生息・生育する動植物について知識を深めます。 ・動植物の同定、危険の有無など、子どもたちと自然や動植物との関わりを促す上で必要な基礎知識の習得を図ります。 ・「20年、30年先の社会を担う子どもたちに自然への興味関心を抱かせる視点」を身につけます。 			
学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な環境問題の仕組みについて説明する知識を身につけることができます。 ・雑木林や水田に生息・生育する同植物について、種名、色、形、生息・生育場所などの基礎知識を深めることができます。 ・身近な自然の変化に気づく視点を身につけることができます。 ・子どもたちが自然に親しむきっかけを与える能力を身につけることができます。 			
テキスト	授業内でプリント等を配付します。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂新版地球環境がわかる／技術評論社 ・虫のしわざ観察ガイド／新開孝／文一総合出版 ・くらべてわかる木の葉っぱ／林将之／山と溪谷社 ・自然観察ハンドブック／日本自然保護協会／平凡社 			
成績評価基準	定期試験60%、小テスト15%、レポート15%、授業態度10%により、総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分野の基礎的な知識には、PM2.5や二酸化炭素の排出など、地球規模の環境問題を含めます。 ・雑木林や水田で観察できる動植物は、春から夏にかけて観察できる種を対象とし、キャンパス内を中心とした野外観察を実施することがあります。 ・図鑑やWEBページを活用した情報収集と整理を必要とすることがあります。 ・対象とする動植物は代表的な種に限ることとし、詳細な分類には踏み込みません。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 人が自然に影響を及ぼしている事例について学び、「環境と人間」の目的を理解する
2 回	<「里山」について> 人が関わることによって環境が維持されている里山について学び、キャンパス内の生きもの観察を行う
3 回	<「コウノトリの野生復帰事業」について> コウノトリの絶滅要因、絶滅要因への対応について学ぶ
4 回	<「生物多様性の維持・保全・回復」について> 河川の魚道、水田魚道、里山の裾刈り、ひょうご元気マツの開発等について学ぶ
5 回	<「生物多様性の事例」1> 水辺の生態系について学び、戸牧地区の農地の生きものの分析・評価を行う
6 回	<「生物多様性」について> 生物多様性の重要性、絶滅の要因、ワシントン条約、ラムサール条約、生物多様性条約について学ぶ
7 回	<里山・水田の生き物について> 水田の生態系を学び、カエルの卵塊や幼生（オタマジャクシ）、ミジンコ等の観察を行う
8 回	<広域的な環境問題について> 地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、PM2.5について学ぶ
9 回	<身近に生育・生息する危険な生き物について> 自然とふれあう活動を計画する上で必要な危険生物に関する基礎的な知識を学ぶ
10 回	<身近な樹木について> 子どもと自然との関わりを支援する上で必要な樹木に関する基礎的な知識を学ぶ
11 回	<アニマルトラッキングについて> 足跡や残された糞、爪跡などのフィールドサインについて学び、キャンパス内のフィールドサインを分析・評価する
12 回	<「都市化と環境問題」について> ヒートアイランド、リサイクル、次世代自動車について学ぶ
13 回	<「生物多様性の事例」2> 環境とトンボの関係について学び、キャンパス内のトンボの分析・評価を行う
14 回	<フィールドマップの作成> 「環境と人間」で習得した知識を活用して、キャンパス周辺の生き物地図を作成する
15 回	<フィールドマップの発表> 完成したフィールドマップを発表し、質疑・応答を通して、情報交換を行う
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
情報リテラシーと処理技術	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	西 村 重 喜 大 塚 貴 之
授 業 概 要	コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関する「基礎知識」、情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について学びます。さらに、パーソナルコンピュータを使用して、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等の活用技術習得に向けた演習を行います。			
授 業 科 目 の 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータのハードウェア及びソフトウェアに関する基礎的知識の習得を図ります。 ・情報セキュリティ対策や著作権の保護などの「情報モラル」について理解を深めます。 ・ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を保育士や幼稚園教諭等の立場で活用する技術の習得を図ります。 			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの仕組みと基本操作を理解することができます。 2. インターネットの基本概念を理解し、活用する能力を身につけることができます。 3. 情報倫理・情報管理、情報セキュリティについての知識と能力を身につけることができます。 4. ワープロソフトを活用し、文書や図を作成する能力を身につけることができます。 5. 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身につけることができます。 6. ホームページの仕組みを理解することができます。 7. プレゼンテーションソフトを活用し、説明する能力を身につけることができます。 			
テ キ ス ト	授業内でプリント等を配付します。			
参 考 書	<p>標準教科書よくわかる情報リテラシー／技術評論社 はじめてのHTML + CSS／秀和システム 演習で学ぶ情報処理の基礎／朝倉書店 情報リテラシー／FOM 出版 図解チャートよくわかる実習情報／技術評論社 保育者のためのパソコン講座／萌文書林</p>			
成 績 評 価 基 準	定期試験60%、提出課題等30%、学習態度10%により総合的に評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の習得を評価するショートテストを実施します。 ・パーソナルコンピュータを使用する演習では、文書、表、スライド等の提出を課します。 ・キーボードのブラインドタッチ習得を目指します。 			
の そ の 他				

授業内容進行表

1 回	<Windows 操作①> 起動、アカウント、エクスプローラ、フォルダ、リモートドライブの理解	16 回	<表計算ソフトの応用⑤> 棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ
2 回	<Windows 操作②> ブラウザ、印刷、コントロールパネル、コンピュータとソフトウェア	17 回	<表計算ソフトの応用⑥> 第2軸が設定されたグラフの作成、ソフトウェアのデータ互換性
3 回	<ワープロソフト基本①> 文字情報、フォント設定、レイアウト設定、ヘッダーの活用	18 回	<ワープロソフトと表計算ソフトの連携①> 差し込み印刷
4 回	<ワープロソフト基本②> 知的財産権、文書レイアウトの設定、文章入力、表、罫線処理	19 回	<ワープロソフトと表計算ソフトの連携②> エクセルオブジェクトのリンク貼り付け
5 回	<ワープロソフト基本③> 情報セキュリティ、図形挿入、画像挿入	20 回	<プレゼンテーションソフト①> 入力、印刷、スライドショー
6 回	<表計算ソフト基本①> 情報漏えい対策、基本操作（フォント、シート、罫線、ヘッダー活用）	21 回	<プレゼンテーションソフト②> アニメーション、画面切り替え、オブジェクトの活用
7 回	<表計算ソフト基本②> 個人情報、情報モラル、セルの書式設定	22 回	<プレゼンテーションソフト③> テーマに沿ったプレゼンテーションの作成(1)
8 回	<表計算ソフト基本③> インターネットの悪用、図形挿入、画像挿入、表の作成	23 回	<プレゼンテーションソフト④> テーマに沿ったプレゼンテーションの作成(2)
9 回	<ワープロソフト応用①> 文書体裁関連用語、文書体裁、文字体裁、オートコレクト	24 回	<マルチメディア①> 音声のデジタル化とファイルの種類、音声ファイルの再生
10 回	<ワープロソフト応用②> 長文の作成、テキストボックスの活用	25 回	<マルチメディア②> 画像のデジタル化とファイルの種類、動画のデジタル化とファイルの種類
11 回	<ワープロソフト応用③> 公文書のスタイル、「おたより」の作成	26 回	<マルチメディア③> 画像解像度、マルチメディアファイルの変換
12 回	<表計算ソフト応用①> 計算式と関数	27 回	<Web ページ①> HTML、HTTP、ブラウザの活用
13 回	<表計算ソフト応用②> 表の作成と関数を使った集計	28 回	<Web ページ②> Web サーバ、HTML エディタの活用
14 回	<表計算ソフト応用③> 児童台帳の作成	29 回	<Web ページ③> HTML と CSS、テーマに沿った HTML ファイルの作成
15 回	<表計算ソフトの応用④> データベース機能の活用、ワード文書への貼り付け	30 回	<ICT活用の展望> VR、IoT、クラウドコンピューティング
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
健康科学	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	今野 賛
授業概要	健康科学のテキストとスポーツに関する視聴覚教材を使用した講義と演習で科学的な根拠に根ざした健康づくりを学びます。グループでの課題研究発表も行います。			
授業科目の目的	日々、健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は、私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方を考えることができるようになります。 2. 救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身につけるとともに、生涯における健康な生活設計（薬物・アルコール・たばこ・エイズ等）への自己の認識を確立し、実践できるようにします。 			
テキスト	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート・発表30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識の習得・理解ができていますか。 			
受講の心構えとメッセージ	日頃からの自己の健康管理を考え実践してください。また、予習・復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み、科学的健康づくりを実践することを求めます。課題レポートは、本学図書館等を活用し完成させてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	健康な生活設計 自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える
2 回	運動の基礎理論 トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ
3 回	運動生理学 運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経について知識を深める
4 回	救命救急 救命救急処置についての知識と処置法、AEDの取り扱い方を学ぶ
5 回	運動処方1 運動処方について学ぶとともに、毎夏に運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ
6 回	運動処方2 ウォーミングアップとクーリングダウンについて
7 回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る
8 回	生活と運動 自己のライフスタイルでの健康づくりを学ぶ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
スポーツ(実技)	1年・通年	実技	45時間 (1単位)	今野 賛
授業概要	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わいます。仲間と身体活動を行う中で自己の体力・健康の保持増進を図ります。将来、保育者、指導者としての子ども達への指導法や競技の運営について学びます。			
授業科目の目的	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とします。講義では、健康と安全に留意しながら対人的・集団的のスポーツを楽しむことができ、作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学びます。各種のスポーツを仲間とともに技能の上達を図りながら楽しみ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球を仲間とともに楽しみ、技術の上達を図ることができるようにします。 2. 各スポーツのルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようにします。 3. ニュースポーツについて体験し、指導者としての知識を獲得できるようにします。 			
テキスト	健康科学／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、実技・技能30%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーシップや周りへの配慮ができているか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・技能では、技能が発揮できるとともに、チームメイトへの指導力も備えているか。 4. 定期試験では、知識の習得・理解ができているか。 			
受講の心構えとメッセージ	この講義を通して、スポーツをすることの意味をあらためて考えてみましょう。また、スポーツの新たな魅力や関わり方を発見することが大切です。スポーツ(実技)は参加してこそ、そのスポーツの本来の楽しさを味わうことができます。見学・欠席しないように日頃の健康管理を実践してください。また、予復習としては、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組み、健康づくりを行ってください。課題レポートは、本学の図書館等を活用し完成させてください。			
その他事項	実技では、運動のできる服装・シューズを準備し、指導者(保育士)の心構えを身につけよう。			

授業内容進行表

1 回	ガイダンス スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ	16 回	バトミントン 4 ダブルスのゲームをリーグ戦方式で楽しみ上達する
2 回	バレーボール 1 基本練習・ルール説明・障害者スポーツについて学ぶ	17 回	ニュースポーツ 4 (ティーボール) を楽しむ
3 回	バレーボール 2 応用練習でバレーボールの技能を上達し、ゲームを楽しむ	18 回	ニュースポーツ 5 (ティーボール) を楽しむ
4 回	バレーボール 3 バレーボールの技能を上達し、チームゲームを楽しみ、審判も学ぶ	19 回	卓球 1 シングルの基本練習で技能の上達を図る
5 回	バレーボール 4 技能を上達させ、作戦を立ててゲームを楽しむ、審判も学ぶ	20 回	卓球 2 シングルのルールを学び、技能の上達を図り、リーグ戦方式でゲームを楽しむ
6 回	バスケットボール 1 基本練習・ルール説明について学ぶ	21 回	卓球 3 シングルの技能の上達を図り、リーグ戦方式でゲームを楽しむ
7 回	バスケットボール 2 応用練習でバスケットボールの技能を上達しゲームを楽しむ	22 回	卓球 4 ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ
8 回	バスケットボール 3 バスケットボールの技能を上達し、チームゲームを楽しむ	23 回	卓球 5 ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ
9 回	バスケットボール 4 技能を上達させ、作戦を立てゲームを楽しむ、審判も学ぶ	24 回	
10 回	ニュースポーツ 1 (ディスク競技) を楽しむ	25 回	
11 回	ニュースポーツ 2 (アルティメット) を楽しむ	26 回	
12 回	ニュースポーツ 3 (フラッグフットボール) を楽しむ	27 回	
13 回	バトミントン 1 バトミントンの基本練習で技能の上達を図る	28 回	
14 回	バドミントン 2 ダブルスの基本練習・応用練習・ルールを学びゲームを楽しむ	29 回	
15 回	バドミントン 3 ダブルスでゲームを楽しみ、上達する	30 回	
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅠ	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>「マナー」は、社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を実践的に学びます。「一般教養」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。「作文」は、観察から文章を書く学習と、発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>学生一人ひとりが、将来の自分をイメージしながら、社会で活動するための力を養うことが目的です。社会人・保育者として必要なマナーや教養を身につけることを目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・保育者として基本的な礼儀・作法を身につけることができますようにします。 2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけることができますようにします。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができるようになりますようにします。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「マナー」は、授業態度・意欲30%、実技テスト70%として総合的に評価します。</p> <p>「一般教養」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は、マナー50%、一般教養25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「マナー」、「一般教養」と「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション 建学の理念に基づく教養的学習成果 (有用な社会人、保育者になるために) マナー・一般教養・作文の授業内容 一般常識テスト
2 回	図書館の利用について (説明及び検索の仕方) マナー 1 服装・身だしなみ
3 回	マナー 2 敬語の使い方 (理論と実践) 敬語の意義、敬語の種類、保育教育の場での敬語実践
4 回	マナー 3 表情・挨拶 (お辞儀の仕方) ・歩き方 (会釈も含む)
5 回	マナー 4 電話のかけ方・受け方、掃除の仕方 (1) 電話のかけ方の基本① (実習依頼の仕方) 清掃の基本① (雑巾のしぼり方・拭き方、箒の使い方 実践)
6 回	マナー 5 電話のかけ方・受け方、掃除の仕方 (2) 電話のかけ方の基本② (実習依頼の仕方) 清掃の基本② (雑巾のしぼり方・拭き方、箒の使い方 実践)
7 回	マナー 6 聞き取りやすい話し方 (理論と実践)
8 回	マナー 7 食事のマナー (箸の使い方)、お茶の入れ方、出し方
9 回	一般教養 1 一般常識テスト・解説等 (1) 作文 1 表記について 観察記録について
10 回	一般教養 2 一般常識テスト・解説等 (2) 作文 2 観察したことを記録する「絵本」
11 回	一般教養 3 一般常識テスト・解説等 (3) 作文 3 観察したことを記録する「動画……3分間クッキング」
12 回	一般教養 4 一般常識テスト・解説等 (4) 作文 4 観察したことを記録する「動画……園児の生活」
13 回	一般教養 5 一般常識テスト・解説等 (5) 作文 5 自己分析をする (長所、短所を文章にする 自己及び他人からの分析)
14 回	一般教養 6 一般常識テスト・解説等 (6) 作文 6 自己紹介文の作成
15 回	一般教養 7 まとめ テスト・解説等 作文 7 自己紹介の実践 (実習での職員に向けたもの、子どもに向けたもの 時間: 約100秒)
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅡ	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>社会人・保育者として求められる一般教養を身につける学習を行っていきます。具体的には、「一般教養」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習し、一般常識模擬試験を実施することにより自己の力を客観的に分析します。「作文」は、自己分析をし、表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、「保育」は、保育者としての保育観察等を通して実習や専門職に就くための力をつける授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>キャリアアップⅠの学習をさらに深め、学生自身が、将来を見据えて、就職に必要な知識とスキルを高め、社会人・保育者としての質の向上を目指します。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・保育者として基本的な知識と技能を身につけることができますようにします。 2. 社会人・保育者として必要な教養を身につけることができますようにします。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができるようになりますようにします。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「一般教養」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は、保育50%、一般教養25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「保育」、「一般教養」、「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。短期間では身につかせるので、主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション
2 回	一般教養1 一般常識テスト・解説等(1) 作文1 テーマをもとに作文を書く (200字程度 時間内に書く)
3 回	一般教養2 一般常識テスト・解説等(2) 作文2 テーマをもとに作文を書く (400字程度 時間内に書く) 1
4 回	一般教養3 一般常識テスト・解説等(3) 作文3 テーマをもとに作文を書く (400字程度 時間内に書く) 2
5 回	保育1 保育観察・理解(1) 0歳～2歳(1)
6 回	保育2 保育観察・理解(2) 0歳～2歳(2)
7 回	保育3 模擬保育(1) 0歳～2歳児(1)
8 回	保育4 模擬保育(2) 0歳～2歳児(2)
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップⅢ	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	担当教員
授業概要	<p>社会人・保育者として求められる一般教養を身につける学習を行っていきます。具体的には、「一般教養」は、社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。「作文」は、自己分析をし、表現していくなど文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。さらに、「保育」は、模擬保育を行い、実践的学習を通して、保育者としての資質を高める内容を実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>社会人・保育者に求められる「自ら考え、行動し、協力し合える力」の向上を目指します。学生一人ひとりが将来に向けて、目標を持ち、計画を立てて、この演習での学びを充実させ自分自身のキャリアアップを図ることが目的です。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・保育者として基本的な知識と技能を身につけることができますようにします。 2. 社会人・保育者として必要な一般教養を身につけることができますようにします。 3. 文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができるようになりますようにします。 			
テキスト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の3つの学習成果について、実技、小テスト、レポート提出、授業態度・意欲により達成度を評価します。</p> <p>「保育」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>「一般教養」は、授業態度・意欲30%、小テスト・課題等70%として総合的に評価します。</p> <p>「作文」は、授業態度・意欲30%、課題70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は、保育50%、一般教養25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>学生一人ひとりが、卒業後の進路希望の実現をめざす授業内容です。就職することで各自のキャリアがスタートしますが、その就職活動に実際に取り組む際に必要な基本的知識と技術を身につけ、就労意識を高めて、適切な職業選択に役立てましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション		
2 回	保育 1	模擬保育(1)	3歳～5歳児(1)
3 回	保育 2	模擬保育(2)	3歳～5歳児(2)
4 回	保育 3	模擬保育(3)	3歳～5歳児(3)
5 回	保育 4	保育者としてのマナー	
6 回	一般教養 1 作文 1	一般常識テスト・解説等(1) 小論文とは 小論文の書き方の基本 (原稿用紙の使用方法を含む)	
7 回	一般教養 2 作文 2	一般常識テスト・解説等(2) テーマをもとに小論文を書く (600字程度) 1	
8 回	一般教養 3 作文 3	まとめ テスト・解説等(3) テーマをもとに小論文を書く (600字程度) 2	
9 回			
10 回			
11 回			
12 回			
13 回			
14 回			
15 回			
【定期試験】 有 ・ (無)			

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーション	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	西 村 豊
授 業 概 要	テキストは保育園での生活を題材にしたものです。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読み、園生活のさまざまな場面での保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学習します。			
授 業 科 目 の 目 的	急速にグローバル化が進む現代社会において、幼稚園や保育所に日本語を母語としない外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えています。保育の現場で必要な基本的な英語表現を身につけることを目的とします。また、英語を学ぶことを通じて、日本語の表現力の向上も目指します。			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができますようにします。 2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができますようにします。 3. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を学びながら日本語との違いや日本語に対する意識を高め、表現力が向上するようにします。 4. 「将来の職場」である園生活の具体的な場面を学習していく中で、未来の保育者という能動的な態度・意識を養います。 			
テ キ ス ト	新・保育の英語／森田和子／三修社／2,052円			
参 考 書	保育の英会話／赤松直子、久富陽子／萌文書林／2,160円			
成 績 評 価 基 準	定期試験 60%、課題・小テスト 30%、授業態度 10%で総合的に評価します。			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ ト	学習の効果を上げるためには、テキストを使った家庭での学習が不可欠です。テキストと英和辞典を持参し、積極的に授業に取り組んでください。電子辞書ではなく紙の英和辞典を持参してください。			
の そ の 他				

授業内容進行表

1 回	<The School Year Begins> 本文の読解、基本表現、演習
2 回	<Arrival> 本文の読解、基本表現、演習
3 回	<Playtime in the Classroom> 本文の読解、基本表現、演習
4 回	<In the Sandbox> 本文の読解、基本表現、演習
5 回	<Grammar 1> 一般動詞・be 動詞
6 回	<Lunchtime> 本文の読解、基本表現、演習
7 回	<Changing Clothes and Story Time> 本文の読解、基本表現、演習
8 回	<Nap Time> 本文の読解、基本表現、演習
9 回	<A Sick Child> 本文の読解、基本表現、演習
10 回	<Grammar 2> 疑問文・否定文・命令文
11 回	<Preparation for Sports Day> 本文の読解、基本表現、演習
12 回	<The Sports Day> 本文の読解、基本表現、演習
13 回	<Going for a Walk> 本文の読解、基本表現、演習
14 回	<Discovering Autumn> 本文の読解、基本表現、演習
15 回	<Grammar 3> 前置詞
【定期試験】 (有) ・ 無	

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
教科専門科目							
こ ども 学 概 論		○			野口・原田・西村・豊・大塚・細	26	
児 童 家 庭 福 祉		○			室 谷 雅 美	28	
社 会 福 祉 論	○				室 谷 雅 美	30	
相 談 援 助				○	室 谷 雅 美	32	別に定める授業科目
保 育 相 談 支 援				○	岡 本 妙 子	34	
こ ども と 音 楽	○				茨 木 金 吾	36	
こどもと器楽・うた			○		國光・田上・大江	38	
こどもと器楽・うたⅡ				○	國光・田上・大江	40	
こ ども と 造 形 Ⅰ	○				岩 田 健 一 郎	42	
こ ども と 造 形 Ⅱ				○	岩 田 健 一 郎	44	別に定める授業科目
こ ども と 体 育 Ⅰ	○				今 野 賛	46	
こ ども と 体 育 Ⅱ		○			今 野 賛	48	
こ ども と 文 学			○		小 西 律	50	
家 庭 支 援 論		○			岡 本 妙 子	52	
こ ども の 保 健 Ⅰ			集中		柳 園 順 子	54	
こ ども の 保 健 Ⅱ				集中	柳 園 順 子	56	
こ ども の 保 健 Ⅲ				集中	柳 園 順 子	58	
保 育 原 理	○				岡 本 妙 子	60	
社 会 的 養 護	○				岡 本 妙 子	62	
精 神 保 健			○		野 口 和 也	64	
こ ども の 食 と 栄 養			○	○	岡 崎 典 子	66	
障 害 児 保 育	○				岡 本 妙 子	68	別に定める授業科目
地 域 ボ ラ ン テ ィ ア	○	○	○	○	西 村 豊	70	
特 別 研 究 Ⅰ	○	○			担 当 教 員	72	
特 別 研 究 Ⅱ	○	○			担 当 教 員	74	
特 別 研 究 Ⅲ			○	○	担 当 教 員	76	
特 別 研 究 Ⅳ			○	○	担 当 教 員	78	

カリキュラム一覧

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
教職専門科目							
教 職 論			○		原 田 敬 文	80	
教 育 原 理		○			稲 田 達 也	82	
教 育 心 理 学		○			野 口 和 也	84	
発 達 心 理 学	○				野 口 和 也	86	
こ だ も と 文 化	○	○			小 西 律	88	
教 育 課 程 論			○		宿 南 久 美 子	90	
保 育 内 容 総 論				○	宿 南 久 美 子	92	
こ だ も と 健 康		○			栗 岡 あ け み	94	
こ だ も と 人 間 関 係		○			原 田 敬 文	96	
こ だ も と 環 境	○				栗 岡 あ け み	98	
こ だ も と 言 葉		○			小 西 律	100	
こ だ も と リ ズ ム 表 現		○			茨 木 金 吾	102	別に定める授業科目
こ だ も と 造 形 表 現 I		○			岩 田 健 一 郎	104	別に定める授業科目
こ だ も と 造 形 表 現 II			○		岩 田 健 一 郎	106	別に定める授業科目
こ だ も と 言 語 表 現			○		小 西 律	108	
こ だ も と 音 楽 表 現	○	○			國 光・田 上・大 江・大 谷・林	110	
教 育 方 法 論			○		原 田・大 塚・稲 田	112	
教 育 相 談				○	原 田 敬 文	114	
乳 幼 児 保 育			○		國 光 み どり	116	別に定める授業科目
社 会 的 養 護 内 容		○			室 谷 雅 美	118	別に定める授業科目
教 育 実 習		実 習			宿 南 久 美 子	120	
教 育 実 習 事 前・事 後 指 導		○	○	○	宿 南 久 美 子	122	
保 育 実 習 I	実 習				栗 岡・岡 本	124	
保 育 実 習 指 導 I	○	○	○		栗 岡・岡 本	126	別に定める授業科目
保 育 実 習 II			実 習		栗 岡 あ け み	128	
保 育 実 習 指 導 II			○	○	栗 岡 あ け み	130	別に定める授業科目
保 育 実 習 III			実 習		西 村 重 喜	132	
保 育 実 習 指 導 III			○	○	西 村 重 喜	134	別に定める授業科目
保 育・教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)				○	宿 南・國 光	136	別に定める授業科目

◎專門教育科目

○教科專門科目

○教職專門科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども学概論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	野口 和也・原田 敬文 西村 豊・大塚 貴之 稲田 達也
授業概要	<p>「こども学」は多様な学術的な分野の知見を集約しながら、総合的にこどもに関わるあらゆるテーマを扱います。</p> <p>「こども」という存在は、歴史や文化を含めて、こども観、教育観、発達観などにより、異なった様々な姿に見えます。そして、「こども」はひとりの人間として存在し、「こども」という時代を生きています。特に幼児期について、一つの視点からの理解に留めるのではなく、多角的な視点からみつめ考えていくことが必要です。</p> <p>「こども」という存在をどのように考え、理解するかは、保育者を志すみなさんにとって必要不可欠なことです。「こども」について考えを巡らせ、よき「こども」の理解者となるよう学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>「こども」という言葉は、私たちも自然にぬくもり、親しみを持って口にしていると思います。誰しもが、「こども」として時を過ごし、そしていつしか「こども」ではない時を過ごすことになります。では、「こども」は、いったいどのような存在なのでしょう。</p> <p>この授業では、「こども」を多角的な視点から見つめることによって、「こども」についての理解を進めることを目的としていきます。そのために、毎回の授業では、今大きく変貌していく社会で起こりうる様々な事柄をテーマに関連する統計調査の結果や資料を用いて、「こども」について考えを巡らせていきます。そして、保育者としてこども達とかかわる専門職業人として深い「こども」観を持つことができるようにします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「こども」という存在を学際的な目を持って総合的に捉えることができるようにします。 2. 「こども」を多様な立場から多角的に考察することができるようにします。 3. 現代の「こども」に関わる様々な問題を理解し、自らの考えを深め、表現することができるようにします。 4. 統計調査の結果など資料を読み解くことができるようにします。 			
テキスト	講義用に作成したプリント等を必要に応じて、その都度配付します。			
参考書	<p>子ども学概論／稲垣由子／丸善プラネット／1,600円＋税</p> <p>私のこども学ノート／間藤侑／わかば社／1,600円＋税</p> <p>こども学序説／吉岡眞知子編／ナカニシヤ出版／2,500円＋税</p>			
成績評価基準	学習態度・意欲 10%、テーマごとの授業内レポート 40%、定期試験 50%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こども学科で学ぶ学生として、「こども」とはどのような存在かという問い掛けについて、考えることは非常に大切です。その考え方は、保育者としての在り方、活動に影響するものです。この授業を通して、「こども」とはどのような存在であり、どう育っていくのか、どのように育ててほしいのか、について、自分自身で考え抜いてみましょう。毎回のテーマについて、真剣に向き合い共に学び合っていければと思います。予習、復習にも積極的に取り組んでください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション及びイントロダクション> 「こども学」とは
2 回	<「こども」とは? 1> 移り変わる社会の中のこども
3 回	<「こども」とは? 2> こどもと家族
4 回	<「こども」とは? 3> こどもと貧困
5 回	<「こども」とは? 4-1> こどもとメディア生活 (TVの世界)
6 回	<「こども」とは? 4-2> こどもとメディア生活 (メディア文化の変容)
7 回	<「こども」とは? 5> こどもと情報機器
8 回	<「こども」とは? 6> こどものメンタルヘルスと教育現場
9 回	<「こども」とは? 7> こどもと文化・あそび
10 回	<「こども」とは? 8> グローバル世界の中のこども
11 回	<「こども」とは? 9> こどもの創造性と制作活動
12 回	<「こども」とは? 10> こどもの権利
13 回	<「こども」とは? 11> こどもを育む仕事
14 回	<「こども」とは? 12> こどもと自然
15 回	<「こども」とは? 13> こどもと安全
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
児童家庭福祉	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
授業概要	<p>児童家庭福祉は、子どもたちがより良い環境で育ち、育まれるための施設体系であり、実践である。保育や子育て支援、社会的養護、障害児とその家庭への支援、子どもの貧困への取り組みなど、その内容は多岐にわたる。</p> <p>保育士として必要な法制度を理解し、児童家庭福祉の実情や各種の福祉制度等に関する基本的知識の理解を深めます。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもや家庭を取り巻く環境、児童家庭福祉施策を概説し、具体的な支援の在り方や保育者の役割について理解し、実践につなげることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義とその歴史の変遷について理解します。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性および児童の権利擁護について理解を深めます。 3. 児童家庭福祉制度や、児童家庭福祉に関連する法律、実施体制などについて理解します。 4. 児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢と課題、福祉ニーズについて理解します。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童や家庭を取り巻く環境についての現状と課題が理解できるようにします。 2. 児童家庭福祉の理念と実施体系について関係づけて考えることができるようにします。 3. 望ましい福祉観と支援観を持ち、保育士として実践することができるようにします。 4. 児童家庭福祉の制度と実施体系を歴史的背景と関連して考えられるようにします。 5. 社会的養護で学習したことを応用し、関連づけて考察することができるようにします。 6. 児童家庭福祉の現状や動向、今後の展望を論ずることができるようにします。 			
テキスト	コンパクト版保育者養成シリーズ 新版 児童家庭福祉論／谷田貝公昭・石橋哲成 監修、高玉和子・千葉弘明 編著／一藝社			
参考書	授業内で紹介します。			
成績評価基準	試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	<p>児童家庭福祉は、保育者になる皆さんが、子ども達のおかれている環境を理解し、児童福祉に寄与できることを目的に学習を進めます。そのためには、日ごろから子どもを取り巻くニュースなどに関心を持つことが必要です。テレビや新聞などから、現在の子ども達に関するニュース情報を集め、どのような施策や支援が必要かを考える習慣を身につけてほしいと思います。</p> <p>また、授業の予習復習のほかに、日常で児童福祉に関心を持つよう心掛けてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<現代社会における児童家庭福祉> 子育て家庭とライフサイクル、子どもの生活と環境の変化
2 回	<児童家庭福祉の歴史の変遷> イギリスにおける児童家庭福祉の変遷、わが国における児童家庭福祉の変遷
3 回	<子どもの権利擁護> 子どもの権利と親子関係、子どもの権利をめぐる歴史と到達点
4 回	<児童家庭福祉の法体系> 児童福祉法、児童に関する社会手当、女性と福祉に関する法律、少年非行に関する法律、児童虐待に関する法律など
5 回	<児童家庭福祉の実施体制> 実施機関の役割、財政、専門職
6 回	<少子化対策と子育て支援> 少子化対策の内容、地域子ども・子育て支援事業
7 回	<母子保健と健全育成> 母子保健法、放課後児童健全育成、児童館
8 回	<子育てと保育サービス> 保育ニーズを生み出す背景、保育施設と保育サービス、保育士の役割
9 回	<子どもと暴力> 児童虐待防止法制定の背景、児童虐待・配偶者虐待の現状
10 回	<保護が必要な子どもと支援> 要保護児童と措置制度、児童相談所の役割、社会的養護を担う施設
11 回	<障害のある子どもと支援> 障害の理解、障害児施策の推移、障害児福祉施策の概要、障害児支援の実際
12 回	<少年非行と支援> 少年非行の現状、少年非行への対応、少年非行問題における課題
13 回	<子どもと貧困> ひとり親世帯と貧困、生活保護世帯と貧困、子どもの貧困をなくすために
14 回	<多職種間の連携による支援> 児童家庭福祉領域における連携、カンファレンス
15 回	<諸外国の児童家庭福祉> 児童家庭福祉の取り組み、児童家庭福祉施策
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会福祉論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	室谷雅美
授業概要	2000(平成12)年には社会福祉事業法が改正(社会福祉法)、介護保険制度もスタートし、その後、障害者自立支援法(現:障害者総合支援法)の施行、次世代育成支援対策、高齢者医療保険改革など、我が国の社会福祉制度は大きな変革を辿っています。このような現状において社会福祉の意義や理念、法体系などの全体像が把握できるよう、近年の社会状況を踏まえながら講義を進めていきます。			
授業科目の目的	一人ひとりの幸せを目指す社会福祉政策、生活の質およびフィールドにおける実践の内実は、決して十分とは言えませんが、私たちは社会福祉の実現を目指していく努力を惜しんではならないと考えます。このような視点に立って、現代社会における社会福祉の意義、理念、そして、社会福祉の制度、法体系および行財政の要旨などについて理解をします。そして、多様化する福祉ニーズに対する専門職としての役割や援助方法について学びます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷が理解できるようにします。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨が理解できるようにします。 3. 社会福祉における公私の役割が理解できるようにします。 4. 相談援助方法及び福祉専門職の役割が理解できるようにします。 5. 社会福祉関連領域の概要が把握できるようにします。 6. 利用者保護の制度、活動が理解できるようにします。 			
テキスト	社会福祉の基本と課題/井村圭壯・相澤譲治 編著/勁草書房 福祉小六法/社会福祉法人大阪ボランティア協会 編集/中央法規出版			
参考書	社会福祉と私たちの生活ー保育を学ぶ人のために/小林育子・瀬早百合共著/萌文書林			
成績評価基準	試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。			
受講の心構えとセージ	社会福祉は、人間が幸せに暮らすための学習でもあります。児童家庭福祉、障がい者福祉、高齢者福祉など多岐にわたっての学習になります。また、法令や制度の学習もあり、情報量が多くなりますが、ひとりひとりの生活を豊かにする「福祉」という考えを深めていけるよう、日ごろから予習・復習に努め、理解を深めましょう。			
その他				

授業内容進行表

1 回	〈生活と社会福祉1〉 現代の生活と社会福祉について
2 回	〈生活と社会福祉2〉 社会福祉と社会保障、保健・医療・福祉の連携について
3 回	〈社会福祉の歴史1〉 欧米の社会福祉の歴史について
4 回	〈社会福祉の歴史2〉 我が国の社会福祉の歴史について
5 回	〈社会福祉の法律〉 社会福祉法、福祉六法、関連した法律について
6 回	〈社会福祉の行政組織〉 国・地方の行政組織、行政組織の関連施設および機関について
7 回	〈社会福祉の民間活動〉 社会福祉における民間活動の内容および課題について
8 回	〈社会福祉従事者〉 社会福祉従事者の資格制度、専門性と倫理について
9 回	〈社会福祉における相談援助〉 相談援助の意義と原則、相談援助の方法と技術について
10 回	〈社会福祉における利用者保護の仕組み〉 情報提供と第三者評価、権利擁護と苦情解決について
11 回	〈児童家庭福祉の概要〉 児童家庭福祉の制度および課題について
12 回	〈高齢者保健福祉の概要〉 高齢者保健福祉の制度および課題について
13 回	〈障がい者福祉の概要〉 障がい者福祉の制度および概要について
14 回	〈生活保護〉 生活保護制度の概要と課題について
15 回	〈地域福祉〉 地域福祉の概要と課題について
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
相 談 援 助	2 年・後期	演習	15時間 (1単位)	室 谷 雅 美
授 業 概 要	「相談援助（ソーシャルワーク）」は、社会福祉援助の方法（ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークなど）に基づいて、クライアント（生活上の困難を抱えている人）の抱えている生活困難に対処するための専門的な援助技術である。本科目では、その基本的知識および技術を講義します。			
授 業 科 目 の 目 的	次の3点で、目指すべき保育士像に近づくことを目的とします。 1. ソーシャルワークを行う観点から保育士の意義を理解することで使命感や倫理観を高めます。 2. ソーシャルワークに関する学習を通して人間力を育みます。 3. ソーシャルワーカーとしての保育実践の基礎を培います。			
学 習 成 果	1. 保育士として必要なソーシャルワークの理論と方法が理解できるようにします。 2. ソーシャルワークの技術を習得できるようにします。			
テ キ ス ト	保育実践を高める相談援助・相談支援／西尾祐吾 監修、立花直樹・安田誠人・波田埜英治 編／晃洋書房／2017年			
参 考 書	相談援助／林邦雄・谷田貝公昭 監修／一藝社			
成 績 評 価 基 準	試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。			
メ ッ ク の セ ー ジ と	相談援助は、クライアント（生活上の困難を抱えている人）の抱えている生活困難に対処するための専門的な援助技術です。生活上の困難をどのように解決していくのか、また、どのように支援するべきかについては、援助資源を理解しておく必要があります。授業での予習・復習はもとより、日常から問題意識をもってください。そのうえで、援助計画を立て、スーパービジョンを受けることで、援助技術は高まります。少しでも、世の中を明るくできるよう、知識を蓄え、援助技術を高めましょう。			
の そ の 他				

授業内容進行表

1 回	<相談援助の概要> ソーシャルワークの誕生と展開、ソーシャルワークの理論・機能・意義・専門性、ソーシャルワークを行う前に…
2 回	<相談援助の方法・技術1> 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術、ジェネラリスト・ソーシャルワーク
3 回	<相談援助の方法と技術2> ソーシャルワークが必要とされる背景、保育が行われる場とソーシャルワーク
4 回	<面接技法> コミュニケーションの本質、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション
5 回	<相談援助における対象・プロセス> ソーシャルワークの対象、ソーシャルワークの展開過程
6 回	<スーパービジョン> スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態
7 回	<相談援助における詳説> 計画・記録・評価、関係機関との連携
8 回	<相談援助事例演習> ソーシャルワーク事例を活用したロールプレイ演習
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育相談支援	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保護者への相談支援は、保育者の専門性を生かした大切な業務として位置づけられています。そのため、この科目では、保育相談支援の具体的な内容と方法を学び、実践力を習得します。さらに、保護者の気持ちを受けとめながら、保護者との信頼関係の構築や養育力の向上を目指す支援の在り方について、演習を通して学んでいきます。科目「相談支援」「家庭支援論」との関連性について考慮しながら学習を進めます。</p>			
授業科目の目的	<p>保護者への支援を保育者の重要な役割として認識し、支援スキルについて学ぶことを目的とします。保護者支援について、内容・方法・技術を具体的に理解し、計画・記録・評価・カンファレンスの実際を知り、保育所だけでなく児童養護・障害児・母子生活支援施設での保育相談支援についても理解を深めます。</p> <p>相談技術においては、カウンセリングの要素が含まれており、各家庭における様々な悩みごとの個人情報守秘義務等の倫理綱領を遵守することや記録と評価を通してのケースカンファレンスの在り方について学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について説明できるようにします。 2. 保育相談支援の基本的スキルが修得できるようにします。 3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法が論じられるようにします。 4. 保育所やその他の児童福祉施設における保護者支援の実際について述べられるようにします。 			
テキスト	<p>保育者養成シリーズ 保育相談支援 改定版／高玉和子・和田上貴昭 編 /一藝社 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>必要に応じて、プリント・資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとセージ	<p>相談支援においては、人のところに触れ、人を支えるという姿勢が必要です。保育者自身もまた重要な「人的環境」であることを認識し、表情に加えてことば遣いやふるまい等を意識的に整えていくよう心がけてください。家庭や子育てに関するニュースや新聞記事に関心を持ち、自らの力や意識を高めましょう。予習復習にも、しっかり取り組んでください。</p> <p>演習以外にもグループデスカッションを行います。積極的な取り組みで実践力を高めましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<保育相談支援の意義 1> 保育相談支援とは オリエンテーション (既習内容の理解度のアンケートを含む)
2 回	<保育相談支援の意義 2> 保育士の専門性を生かした支援
3 回	<保育相談支援の実際 1> 演習(1)
4 回	<保育相談支援の実際 2> 演習(2)
5 回	<子どもの権利> 子どもの最善の利益
6 回	<保護者への支援 1> 保護者とのパートナーシップ
7 回	<保護者への支援 2> 特別な対応を要する家庭への支援
8 回	<保護者への支援 3> 保護者のエンパワメント
9 回	<保護者への支援 4> 信頼関係を基本とした関わり
10 回	<関係機関との連携> 社会資源の活用と関係機関
11 回	<要保護児童の家庭に対する支援 1> 演習(1)
12 回	<要保護児童の家庭に対する支援 2> 演習(2)
13 回	<保護者支援の実際 1> 保護者に伝わる保育指導
14 回	<保護者支援の実際 2> 保護者支援の方法と技術
15 回	<保護者支援の実際 3> 保護者支援の内容
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	茨木金吾
授業概要	<p>日々の保育に音楽を活かすために必要な基礎的となる知識や技術を学びます。</p> <p>幼児教育者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように、個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように、基礎力を養います。そのためには、音楽理論（基礎知識）の習得が必修条件であり、本授業は、この知識の習得を中心に授業を展開していきます。また、グループワークとして、幼児用楽器を使った楽器あそびのあり方を理解すると同時に、グループでの指導案作成の意義を考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊びを展開するために必要な基礎的な知識や技術を学び、保育に携わる者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように基礎力を養うことをその学びの目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できます。 2. 基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムに関わることが可能となります。 3. 基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、幼児用楽器の取り扱い方を知ることによって、それらを用いた楽器あそびが展開できるようになります。 4. 保育の表現技術（音楽表現に関する知識や技術）を習得することができます。 			
テキスト	<p>こどもと音楽／茨木金吾著／豊岡短期大学 たのしく遊べるこどものうた[改訂版]／大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著／すずき出版 ／2,300円＋税</p>			
参考書	<p>楽しく遊べるこどもの音楽表現(手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた)／田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著／大学図書出版／2,700円＋税 幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験（音楽理論）…… 60% 2. グループワーク授業への取り組み（楽器あそび）…… 30% 3. 学習態度、意欲…… 10% <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自、五線ノートとプリント保管用ファイルを用意してください。 2. 時間があれば、楽曲を音読しましょう。 3. 授業外での復習と予習（自主練習、自主学習）を怠らないでください。 4. 授業への積極的な取り組みを期待します。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション 幼児のための音楽教育 (音楽教育の目標、幼児教育における音楽の大切な役割と効果、そしてその影響)
2 回	音楽理論1 記譜法の基礎知識 (五線・加線と加間・小節線、音部記号と譜表、音名、音符と休符、拍子、縦線と小節、拍子感の変化)
3 回	音楽理論2 音階 (自然音階、移調法、長音階、短音階、半音階、特殊な音階)
4 回	音楽理論3 調 (調の名称、調号、近親調)
5 回	音楽理論4 音程 (全音と半音、度数、種類、全音階的音程、半音階的音程、単音程と複音程、転回音程、異名同音程、協和音程と不協和音程)
6 回	音楽理論5-(1) 和音 (三和音、和音記号、主要三和音と副三和音)
7 回	音楽理論5-(2) 和音 (転回和音、カデンツ、密集和声と開離和声)
8 回	音楽理論5-(3) 和音 (七の和音、九の和音、その他の和音)
9 回	音楽理論6-(1) コードネーム (三和音の構成)
10 回	音楽理論6-(2) コードネーム (七の和音の構成、その他よく使用されるコード)
11 回	音楽理論7 記号と標語、音楽形式 (記号と標語、装飾音、音楽形式)
12 回	音(楽音、自然音等)と親しむことについて (楽音だけでなく、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験の重要性と保育の環境のあり方)
13 回	幼児用楽器の取り扱い方 (手拍子、膝打ち、足拍子、カスタネット、鈴、大太鼓、小太鼓、タンバリン、トライアングル、シンバルなど、こどもの身近な楽器と、その演奏方法)
14 回	楽器あそび(1) (楽器あそびの構成の理解とそれら楽器を用いた指導案の作成)
15 回	楽器あそび(2) (作成した指導案の発表とふりかえり(グループワーク)) 「こどもと音楽」まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと器楽・うた	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	國光みどり 田上栄美子 大江美歩子
授業概要	<p>これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を活かして授業を展開します。こどもたちの音楽表現活動（聴く、歌う、奏でる、動く、つくる等）は、音や音楽で表現する楽しさや仲間と演奏する喜び等を体験しながら音楽的な感性を育てていく活動です。音楽表現を通してこどもの感性を育む保育実践力を身に付けるために、この授業の中ではピアノ演奏、合奏、合唱等のほか、こどもが楽しいと感じる幼児向け番組の分析を行いながら、実践発表の構成力を養います。さらに、これらの学習における実践発表として「卒業演奏会」に繋いでいきます。演奏曲の決定、パート分け、パート練習、演奏会の企画立案などは話し合いをもち検討しながら進めます。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」が含まれています。幼児教育に携わる保育者自身が感性を豊かに磨くことにより、こどもの表現活動を支え、こどもの様々な可能性を育てることに繋げていきます。</p> <p>そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を活かしながら、こどもの感性を育むためのピアノや幼児が扱いやすい楽器の演奏などの音楽的技術や構成力、指導力を養います。さらに保育現場を想定し、実践発表に繋ぐための構成力を身に付けていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を見つけ、それを解決しようと積極的に授業に臨む態度、意欲を養うことができます。 2. 「卒業演奏会」の企画を通して演奏会までの計画立案、計画推進の手順がわかるとともに、創意工夫して主体的に練習に取り組むことができるようになります。 3. 自分の役割や立場を理解し、見通しと責任もって取り組むことができるようになります。 4. 「こどもの心を弾ませる音楽表現を発表する」実践から、達成感、充実感、仲間との連帯感や協働することの意義など、こどもが学び育つ過程を学生自身も経験しながら保育の実践力を養うことができます。 			
テキスト	必要に応じて、プリント配付します。			
参考書	必要な資料、楽譜等を紹介します。			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1～3を総合的に検討して評価します。 1. 授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等：20% 2. 協調して学ぶことができる：20% 3. 演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任もって演奏する等：60% 			
受講の心構えとセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・実践発表についての話し合いでは、幼児教育学科としてこどもの身近な音楽を意識し、「こども主体」の視点で楽しい発想を出し合ひましょう。 ・仲間と協働しながら「こどもの心を弾ませる」音楽表現の実践過程を進めていきましょう。 ・具体的な練習では各自の役割や受け持ったパートを責任をもち課題意識をもって、積極的意欲的練習を進めましょう。 ・受け持ったパートを責任持って演奏することは、音楽表現活動の基本的な技能の向上につながり保育実践の場での実践力につながります。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で楽譜や資料等を適宜配付します。 ・楽譜等を綴じますので、ファイル（できれば、クリアファイル、A4サイズ）を用意してください。 			

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション（学習の目標、授業内容、学習方法等について） 企画立案 ①「こどもが喜ぶ音楽表現番組」の視聴と分析
2 回	企画立案 ②「こどもが喜ぶ音楽表現番組」の視聴と分析から、音楽表現活動実践の具体的な内容と方向性を決定する
3 回	合奏曲【A】練習（基礎練習）
4 回	合奏曲【B】練習（基礎練習）
5 回	歌唱曲【A】練習（基礎練習）
6 回	歌唱曲【B】練習（基礎練習）
7 回	ピアノ（連弾）練習 1 合奏曲【A】パート練習→全体練習
8 回	ピアノ（連弾）練習 2 合奏曲【B】パート練習→全体練習
9 回	ピアノ（連弾）練習 3 歌唱曲【A】練習（身体表現の工夫）
10 回	ピアノ（連弾）練習 4 歌唱曲【B】練習（身体表現の工夫）
11 回	舞台環境研究（話し合い） ピアノ（連弾）練習 5
12 回	歌唱曲【A】総合練習 舞台環境研究（制作）
13 回	合奏曲【A】全体練習 歌唱曲【A】 【B】全体練習
14 回	合奏曲【A・B】発表 歌唱曲【A・B】発表
15 回	ピアノ（連弾）の発表 活動の振り返り
【定期試験】 有 ・ (無)	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと器楽・うたⅡ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	國 光 みどり 田 上 栄美子 大 江 美歩子
授業概要	<p>「こどもと器楽・うた」で習得した音楽の基本的な知識と技能を活かして、授業を展開します。幼児期を終えるまでに育てておきたい10の姿で示されている「豊かな感性と表現」を育むために、音楽表現活動とこどもの育ちについてテーマを決めて分析します。その中で、音楽的感性（音や音楽の美しさなどを感じ取るときの心の働き）の素地を育む音楽表現活動とはどのようなものかという研究を深めていきます。さらに音楽表現活動の実践発表（卒業演奏会）を目指して、その発表内容やその目的に向けての過程を学生が主体的に考えながら構成し発表できる力を養います。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもの音楽表現活動には、「聴く活動」「歌う活動」「奏でる活動」「動く活動」「つくる活動」が含まれています。幼児教育に携わる保育者自身が感性を豊かに磨くことにより、こどもの表現活動を支え、こどもの様々な可能性を育てることにつなげていきます。</p> <p>そこで、保育者に求められる資質・能力の向上を目的に、学生各人が、これまで学んできた音楽に関する基本的な知識と技能を活かしながら、こどもの感性を育むためのピアノや幼児が扱いやすい楽器の演奏などの音楽的技術や構成力、指導力を養います。さらに保育現場を想定し、「卒業演奏会」につなぐ為の力を身につけ、さらに深めていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を見つけ、それを解決しようと積極的に練習に、授業に臨む態度、意欲を養うことができます。 2. 「卒業演奏会」の企画を通して演奏会までの計画立案、計画推進の手順を体験的に理解するとともに、創意工夫に基づいた発表の構成やそれに向けての計画的な練習に取り組むことができるようになります。 3. 自分の役割や立場を理解し、責任をもって取り組むことができるようになります。 4. 「自分（たち）の感じる（イメージする）音楽表現を仲間と協働しながら発表する。」ことを通して、達成感・充実感、満足感や仲間との連帯感など、表現活動を通して多くを味わうことができるようになります。 			
テキスト	必要に応じて、プリント配付します。			
参考書	必要な資料、楽譜等を紹介します。			
成績評価基準	<p>1～3を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度や日々の課題に対する関心や意欲等：25% 2. 協調して学ぶことができる：25% 3. 演奏のできばえ、自分の受け持つパートを責任をもって演奏する等：50% 			
受講の心構えとセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の役割や受け持ったパートを責任もって行うために、練習は欠かせません。課題意識を持ち、意欲的に練習を進めましょう。 ・受け持ったパートを責任もって演奏することは、音楽表現活動の基本的な技能の向上につながります。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でプリント等を適宜配付します。 ・楽譜を綴じますので、ファイル（できればクリアファイル、A4サイズ）を用意してください。 			

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション (学習の目標、授業内容、学習方法等について) 合奏曲【A・B】の練習1 ピアノ (連弾) 練習1
2 回	歌唱曲【C】の練習1 ピアノ (連弾) 練習2
3 回	歌唱曲【C】の練習2 ピアノ (連弾) 練習3
4 回	合奏曲【A・B】の練習2 ピアノ (連弾) の練習4
5 回	合奏曲【A・B】の練習3 ピアノ (連弾) 練習5
6 回	舞台環境創り1 ピアノ (連弾) 練習6
7 回	総合練習1 台本をもとに流れを確認する 舞台環境創り2
8 回	総合練習2 台本をもとに流れを確認する 舞台環境創り3
9 回	総合練習3
10 回	リハーサル1 (ピアノ (連弾))
11 回	リハーサル2 (歌唱曲・合唱曲)
12 回	リハーサル3 (ピアノ (連弾)、合奏曲)
13 回	リハーサル3 (プログラム前半の練習)
14 回	リハーサル4 (プログラム後半の練習) 成果発表 (ピアノ (連弾))
15 回	成果発表 (歌唱曲・合唱曲・合奏曲) 活動のまとめとふりかえり
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅰ	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	<p>幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習します。それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、あわせて用具や描画材について体験的に理解します。さらに、イメージの広がりから、また、素材の特性を活かし工夫する製作を展開します。具体的には保育現場の教材も視野に入れながら、壁面装飾を想定した製作をしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できるようにします。 2. 形や色、材質等の造形に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を関係づけることができるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと造形Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学</p>			
参考書	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 その他の参考書は授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>えがく造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この保育者としてえがく体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場で造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階とえがく表現の関係を理解していくことも心がけてください。授業時間内で仕上がらない課題は授業時間外で製作してください。</p>			
その他事項	<p>絵具等を使用する授業回はエプロン等を準備してください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<p><オリエンテーション> 授業の目的と研究の観点について学ぶ</p> <p><子どもの造形活動と製作体験の意義> えがく製作体験を通して視ることについて学ぶ</p>
2 回	<p><形態と色彩の原理について学ぶ> ~形態・色彩・構成美の要素~</p> <p><形態と色彩について学ぶ1> 色調について学ぶ(1)</p>
3 回	<p><形態と色彩について学ぶ2> 色調について学ぶ(2)</p>
4 回	<p><形態と色彩について学ぶ3> 色の感情について学ぶ(1)</p>
5 回	<p><形態と色彩について学ぶ4> 色の感情について学ぶ(2)</p>
6 回	<p><形態と色彩について学ぶ5> 色の感情について学ぶ(3)</p>
7 回	<p><形態と色彩について学ぶ6> 色の感情について学ぶ(4)</p>
8 回	<p><形態・色彩等についての小テスト・振り返り></p> <p><造形表現を支える環境づくりについて学ぶ></p> <p><子どもの発達と表現手法・材料用具について学ぶ></p>
9 回	<p><えがく表現と表現手法について学ぶ1> 描画材料と表現研究</p>
10 回	<p><えがく表現と表現手法について学ぶ2> 版画手法による製作(1)</p>
11 回	<p><えがく表現と表現手法について学ぶ3> 版画手法による製作(2)</p>
12 回	<p><えがく表現と表現手法について学ぶ4> コラージュによる製作(1)</p>
13 回	<p><えがく表現と表現手法について学ぶ5> コラージュによる製作(2)</p>
14 回	<p><えがく表現と表現手法について学ぶ6> コラージュによる製作(3)</p>
15 回	<p><振り返り・まとめ></p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅱ	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	保育内容を理解し、紙と粘土によるつくる活動に主眼をおきます。それらの基礎知識をもとにして、材料や用具の取り扱いと、つくる・えがく活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。乳幼児の造形活動の教材やそれらを使って、保育者として活動を展開、援助するための知識や技能について、製作と振り返りを通して学習します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、「こどもと造形Ⅰ」で学習したことを踏まえ、保育の中で取り扱う新たな教材とそれらに必要な知識や技術の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識を深めることができるようにします。 2. 製作する手法等に関する基礎的な用語が説明でき、それらをもとに、えがく・つくるための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して、造形表現ができるようにします。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、新たに製作体験をする実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術の関係づけができるようにします。 			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学			
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 その他の参考書は授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、課題（作品等）の提出状況・内容60%、定期試験40%の割合で達成度を評価します。			
受講の心構えとメッセージ	つくる造形表現は表現技術の巧拙よりも素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。 また、授業時間外の学習として、子どものつくる造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場で造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
その他事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来てください。その他の教材は準備します。 絵具等を使用する授業回はエプロン等を準備してください。			

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> <造形活動の素材と子どもの造形活動（遊び・手法）について考える> <紙による製作研究 紙の特性、種類、加工法について> <紙による製作1> 花（1）
2 回	<紙による製作2> 花（2） <紙による製作3> ぱたぱた蝶々
3 回	<紙による製作4> 動くおもちゃ（紙椀）
4 回	<粘土による製作研究 粘土の特性、種類、加工法について> <小麦粉粘土による製作> 食材をつくる
5 回	<粘土（石塑）による製作1> 手法と構想 <粘土（石塑）による製作2> 成形（1）
6 回	<粘土（石塑）による製作3> 成形（2）
7 回	<粘土（石塑）による製作4> 成形（3）
8 回	<粘土（石塑）による製作5> 彩色 <子どもの造形表現活動についてのまとめと今後の課題>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育Ⅰ	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	今野 賛
授業概要	<p>子どもたちにとっての運動遊びの必要性を発育発達的面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学びます。</p> <p>グループごとに色々な運動遊びを考案し、発表をとおして指導法を学ぶとともに保育者として必要な運動遊びを習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもの運動遊びは、第一に楽しくなければなりません。訓練的にならずに、子どもたちが主体的に取り組み、多くの動きが体験できるような環境構成ができることが大切です。この演習で多くの運動遊びの指導法を具体的に習得し、年齢や環境に応じて子どもたちに指導ができ、子どもの発育・発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び(グループ遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び)などを考え、模擬授業を通して、グループで考案した運動遊びの指導ができるようにします。 2. 望ましい幼児の活動や運動遊びを引き出すために、遊具の安全性についての認識を深め、子どもたちが安全に遊べる指導や環境づくりができるようにします。 			
テキスト	こどもと体育Ⅰ／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技20%、定期試験40%により総合的に評価します。その評価基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているか。 			
受講の心構えとメッセージ	<p>この演習は参加し、実践を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。課題レポートは、図書館等を活用し完成させてください。</p>			
その他事項	演習のできる服装で参加し、授業を通して指導者(保育士)の心構えを身につけましょう。			

授業内容進行表

1 回	ガイダンス 幼児の運動あそびの必要性について考え、その環境作りや言葉かけを学ぶ
2 回	こどもの発育と遊びについて考える 1歳から5歳児までの「歩・走・跳・押・引・転・登・投」の動きをグループで考え発表しよう
3 回	運動遊びを考える1 1歳から5歳児までのグループでの遊びを考え・発表しよう
4 回	運動遊びを考える2 1歳から5歳児までの競争遊びを考え・発表しよう
5 回	操作性遊具を使った遊びを考える1 ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動遊びを考える
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える2 ボール・縄・フープ・竹馬などを使って発育発達にあった運動遊びを考え・発表・体験しよう
7 回	身近な素材を使った遊びを考える1 新聞紙を使って遊ぼう
8 回	身近な素材を使った遊びを考える2 新聞紙を使った遊びを発表しよう
9 回	こどもの体操を考える1 リズム体操・こどもの体操・親子体操を創作しよう
10 回	こどもの体操を考える2 リズム体操・こどもの体操・親子体操を発表しよう
11 回	器具を使った遊びを考える1 マット運動遊びの基本を学ぼう
12 回	器具を使った遊びを考える2 マット・跳び箱運動遊びの基本を学ぼう
13 回	器具を使った遊びを考える3 マット・跳び箱を使った運動遊びの基本を学ぼう
14 回	固定遊具の遊びと安全点検を学ぶ 固定遊具の遊び方と安全点検を理解しよう
15 回	ふり返りとまとめ グループ実践発表会（運動遊び）
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育Ⅱ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	今野 賛
授業概要	「こどもと体育Ⅰ」の学習を踏まえ、運動遊びを考え発表・体験します。固定遊具の鉄棒遊びや逆上がりなどについて研究していきます。また、鬼ごっこ遊びについて研究を深めるなど、子どもたちが安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方を学びます。			
授業科目の目的	<p>子どもの運動遊びは、異年齢で運動能力や理解度に差がある中で展開されていきます。そして、皆が楽しくなければなりません。決まりやルールも、そのグループに集まった子どもたちの能力にあったものを考えていきます。</p> <p>保育者は子どもたちに運動遊びを指導する際、訓練的にならず、子どもたちが主体的に取り組み、多くの動きを体験できるような環境を設定していきます。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じて子どもたちに提供できることが求められます。この演習は発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（野外での個人・対人・集団遊び、鉄棒遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び）を、考える力を養った上で、指導ができるようにします。 2. 運動遊びの指導法や必要な知識の習得ができるようにします。 			
テキスト	こどもと体育Ⅰ／長谷川定宣／豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技10%、定期試験50%により総合的に評価します。その評価の基準は、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていないか。 2. 課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 3. 実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識が習得でき理解ができていないか。 			
受講の心構えとメッセージ	この演習は参加し、実践演習を通じた授業を受けてこそ意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしてください。予習・復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し、こどもと体育の課題を探る意識をもつことを望みます。課題レポートは、図書館等を活用し完成させてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	ガイダンス テーマ：「生きる力の基礎を培う運動遊び」 幼児の遊びへのワクワク感に思いをはせ、成長過程での運動遊びの大切さを考える
2 回	自然（野外）での幼児の遊びを考える グループでの遊びを考え発表し体験しよう
3 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 1
4 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 2 実践とDVDで研究
5 回	鉄棒遊びと逆上がりを研究する 3
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える 1 まねっこ体操からリズム表現運動へ 1
7 回	操作性遊具を使った遊びを考える 2 まねっこ体操からリズム表現運動へ 2
8 回	大型遊具を使った遊びを考える 1 まねっこ体操からリズム表現運動へ 3
9 回	大型遊具を使った遊びを考える 2 まねっこ体操からリズム表現運動へ 4
10 回	サーキット遊びを考える 1 マット・跳び箱・平均台を使ってサーキット運動あそびを考える
11 回	サーキット遊びを考える 2 絵本の物語をサーキット遊びへ展開させる
12 回	鬼ごっこ遊びを研究する 1 これまで体験したことのない鬼ごっこ遊びを研究する
13 回	鬼ごっこ遊びを研究する 2 これまでに体験したことのない鬼ごっこ遊びの研究を発表し体験する
14 回	伝承遊びを研究する 書物や高齢者から昔の遊びを知る
15 回	ふり返りとまとめ 「生きる力の基礎を培う運動遊びの工夫」
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文学	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	小西律
授業概要	<p>児童文学の作品を題材として、作者がこどもに託すメッセージを、昔話等からは先人の望みなどを受け取り、こどもの生活経験と照らし合わせながら思考し、作品分析を行います。</p> <p>また、小学校の国語の教科書に掲載されている作品も取り上げます。</p> <p>「赤い鳥」から生まれた童謡、それまで学校教育の中での教材としての唱歌も取り上げ分析します。</p>			
授業科目の目的	<p>「こどものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる(西本鶏介)」ものであると言われます。生涯にわたりその人の人間性の基礎を培うこどもの文学についての理解を深めるとともに、こどもにとり成長の糧となりうる最上の1冊を提示できる選択眼を養うことを目的とします。童謡、唱歌が生まれた背景についても考察し、その世代のこどもの生活を知り、理解することから歌い継がれた意味を知ることと目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの文化の先駆的役割を担った「赤い鳥」の主張を理解し、その中の文学について現在に受け継がれている意味を理解、認識した上で、今日の児童文学について説明ができるようにします。 2. 具体的な作品を探求することから、こどもを取り巻く生活、環境、社会問題などを認識し、分析ができ、それらを踏まえ各自の作品論を仕上げることができるようにします。 3. 作家たちの多様なメッセージからこどもの現在及び未来に向けた生き方、希望、可能性に思いを馳せ、作品の選択眼を養うことができるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと文学／小西律／豊岡短期大学 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>語ってよ子守歌のように／禅定生世／エルビス社／1,500円 世界でいちばん愛される絵本たち／人気作家30人のインタビュー集／白泉社／2007年／本体1,600円</p>			
成績評価基準	<p>定期試験30%、レポート・提出物・発表20%、授業・課題に取り組む姿勢20%、作品論30%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「人生の真実は大人が教えるものでなく、こどもがみずからの力でつかみとっていくものです。その力をあたえてくれるのが文学の価値」と西本鶏介は言います。授業は、講義と映像の視聴、レポート作成、意見発表などで進めます。幼い頃読んだ懐かしい作品も出て来ます。作者が託したメッセージを受け取り、大いに悩み、考え、感動してほしいと思っています。</p> <p>最終的には1作品を選び、その作品論を完成させるという大きな目標があります。深く読み込まなければ作品論はまとめることは叶いませんが、やり遂げた後にはきっと大きな喜びと自信が得られるでしょう。また、学習を深めるため、予習・復習を課題として課してゆきますので取り組みを怠ることのないようにしてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<こどもと文学 1> 日本と世界の児童文学 「赤い鳥」について、「赤い鳥」がもたらしたものの 各自の児童文学作品論について
2 回	<こどもと文学 2> 世界と日本 児童文学作品、文学地図制作
3 回	<こどもに何を語り伝えるか 1> 児童文学作家達からのメッセージ
4 回	<こどもと家族 1> ワイルダーの生涯と作品
5 回	<こどもと家族 2> ワイルダー レポート作成
6 回	<こどもの自立 1> バーネットの生涯と作品
7 回	<こどもの自立 2> バーネット レポート作成
8 回	<こどもと人間関係 1> きむらゆういち 絵本と作品
9 回	<こどもと人間関係 2> きむらゆういち レポート作成
10 回	<現代社会とこども 1> エンデの生涯と作品
11 回	<現代社会とこども 2> エンデ レポート作成
12 回	<こどもに何を語り伝えるか 2> 児童文学作家からのメッセージ
13 回	<こどもと文学 3> こどもに与える1冊の絵本・物語を考える
14 回	<こどもと文学 4> こどもに与える1冊の絵本・物語を考える 私のおすすめの1冊 発表
15 回	<教科書に取り上げられている作品> 幼児教育と小学校との連携の中での児童文学 概論、調査、意見発表 <まとめ> 児童文学 作品論 完成 提出
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
家庭支援論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>保育者は、「保育」とともに、在園児の保護者への支援を行う専門職です。さらに、地域の子育て家庭への支援も大切な業務となっています。近年、社会の変化に伴い家庭や子育ての課題は多様化・複雑化しています。その実態を理解した上で、子育て家庭への支援体制と、様々なニーズに応じた専門機関との連携について学んでいきます。事例研究等によって、具体的な家庭支援の方法と技術についても習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>子どもが安心して生活し、心身を健全に育むためには、家庭の安定した状態が必要であるという認識を基礎とし、今日の家庭・家族が抱える問題について考察します。さらに保育者に求められている保護者・家庭への支援について、具体的に施策や方法について理解することを目的とします。</p>			
学習成果	<p>保育者に求められる子育て支援・保護者支援という役割や機能（保育相談支援と一部重なる部分がある）について理解し、それらに関する専門的な知識・技術・倫理を身につけます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解できるようにします。 2. 子育て家庭を取り巻く社会状況等について論じることができるようにします。 3. 子育て家庭の支援体制について理解し説明できるようにします。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について、その役割・方法について説明できるようにします。 			
テキスト	<p>コンパクト版保育者養成シリーズ 家庭支援論／中野由美子 編著 /一藝社 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>必要に応じてプリント・資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「子育て」「子育て」が難しくなったと言われますが、その原因や対応について考えていきます。その中で、保育者の役割の大切さについて理解を深めましょう。また保育の背景となる社会の状況や支援施策は、刻々と変化しています。常日頃から新聞やニュースに目を通して、自ら学び取る姿勢を持ちましょう。予習・復習が欠かせません。取り組みに期待しています。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション 家庭の意義と機能 1> 子どもが育つ場としての家庭・家族
2 回	<家庭の意義と機能 2> 子育て環境の変化と家庭支援の必要性
3 回	<家庭の意義と機能 3> 現代家族の人間関係と子育て
4 回	<社会と子育て 1> 地域社会の変容と家庭支援の必要性
5 回	<社会と子育て 2> 男女が共同で働き子育てをする社会
6 回	<家庭支援 1> 保育の場における家庭支援
7 回	<家庭支援 2> 家庭との緊密な連携およびパートナーシップ
8 回	<家庭支援 3> 保育所・幼稚園における支援方法の実際
9 回	<子育て支援 1> 子育て支援制度の概要
10 回	<子育て支援 2> 子育て支援における関係機関や人との連携
11 回	<子育て支援 3> 在宅子育て家庭への支援
12 回	<多様な支援の展開 1> 子育ての負担・不安を抱えた保護者への支援
13 回	<多様な支援の展開 2> 発達が気になる子どもと保護者への支援
14 回	<多様な支援の展開 3> ネグレクト（養育拒否）や不適切な養育家庭に対する支援
15 回	<これからの子育て支援> 子育て支援サービスの課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅰ	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	柳園順子
授業概要	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。 また、こどもの事故や安全対策について理解し基本対応について学習していきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。 2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解します。 3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解します。 4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解します。 5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学びます。 6. こどもの精神保健とその課題等について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できるようにします。 2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解できるようにします。 3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解し、説明できるようにします。 4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解し、説明できるようにします。 5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解し、説明できるようにします。 6. こどもの精神保健とその課題等について理解し、論じることができるようになります。 			
テキスト	こどもの保健Ⅰ／新川加奈子／豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度、課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康な子どもの発達や成長過程をしっかりと理解してほしい。 ・常に子どもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしい。 ・自分のこれからの育児や仕事に役立てる方向で取り組んでほしい。 ・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参してほしい。 ・学びを深めるために、予習・復習に取り組んでほしい。 			
その他	必要に応じてプリントを配布します。			

授業内容進行表

1 回	小児保健の基本
2 回	小児の健康指標と水準
3 回	小児の発育1 発育と発達
4 回	小児の発育2 身体発育の問題点
5 回	小児の生理機能1 中枢神経 水分代謝
6 回	小児の生理機能2 免疫機能 感覚機能
7 回	小児の運動機能
8 回	小児の精神機能
9 回	小児の精神保健 先天異常
10 回	家庭看護
11 回	予防接種1 予防接種とは
12 回	予防接種2 ワクチンとは
13 回	事故と安全対策1 こどもの事故の特徴
14 回	事故と安全対策2 救急処置の基本対応
15 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における小児の健康
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅱ	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	柳園順子
授業概要	<p>こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもに多い病気を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習します。</p> <p>また、こどものおかれている健康問題や地域保健活動を理解し、保護者支援についても学習していきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価を行うことができます。 2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えます。 3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に学び、知識を獲得します。 4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解します。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解します。 6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画立案及び評価ができるようにします。 2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境が理解できるようにします。 3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的な理解ができるようにします。 4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、説明できるようにします。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解し、論じることができるようにします。 6. 施設等におけるこどもの心身の健康および安全の実施体制について理解できるようにします。 			
テキスト	こどもの保健Ⅱ／新川加奈子／豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介します。			
成績評価基準	授業態度、課題提出30%、定期試験70%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・医学用語や表現が難しい面がありますが、健康なこどもの発達や成長過程をしっかり理解してほしいと思っています。 ・常にこどもたちの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしいと思っています。 ・自分のこれからの育児や仕事に役立てる意識を持ち、その方向で取り組んでほしいと思っています。 ・テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参し、予習・復習に取り組んでください。 			
その他	必要に応じてプリントを配布します。			

授業内容進行表

1 回	日常に見られる症状1 こどもの健康状態の観察 下痢
2 回	日常に見られる症状2 頭痛
3 回	小児感染症1 感染症の基礎知識 等
4 回	小児感染症2 発疹性疾患
5 回	小児感染症3 食中毒
6 回	小児感染症4 呼吸器疾患
7 回	小児感染症5 保育所における感染症対策 血液・リンパ節疾患
8 回	小児感染症6 神経系疾患 中耳炎
9 回	アレルギー疾患
10 回	集団の保健1 保健活動の基本方針
11 回	集団の保健2 施設の特性と保健
12 回	母子保健行政1 母子保健行政の組織
13 回	母子保健行政2 母子保健サービス
14 回	母子保健行政3 母子保健サービス 健やか親子21
15 回	こどもの健康と生活
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅲ	2年・集中	演習	30時間 (1単位)	柳園順子
授業概要	<p>初めに、「こどもを思いやる」とはどういうことなのかを考え、講義と実技演習で実践に役立つ、知識と技術を習得できるように進めます。</p> <p>次に、発達途上にある乳幼児の特徴を学び、発達の評価をするための身体計測の技術を演習します。安全を担保するための実技に重点を置き進めていきます。生活を守るための技術にも習熟するよう取り組みます。</p> <p>保育環境の安全を守り、病気や事故時の対応ができるよう応急手当や、救急処置ができるよう演習します。授業はグループワークを取り入れ、学生双方の学びと気づきを深めていきます。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育を行う上で必要なこどもの成長、発達の状態、健康状態を正しく把握するための方法と技術を演習から学びます。 2. 健康と安全に関する保健活動について理解し、関係者とのコミュニケーションがとれるよう知識を深めます。 3. 病気の早期発見や事故の予防、対応を正しく行えるよう応用能力と技術を演習し、また、家族との連携や記録の必要性を理解します。 4. グループワークの授業でリーダーシップや発表態度を育てます。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育施設での保健活動の計画立案ができるようにします。 2. 日常生活に必要な養護技術が安全におこなえるようにします。 3. 発育指標となる身体計測の実践と評価ができるようにします。 4. 健康上の問題となる情報を把握し、情報の判断ができるようにします。 5. こどもの疾病について予防や応急処置と急変時の対応と報告、連絡、記録ができるようにします。 6. 安全を脅かすリスクが把握できるようします。 7. 保育者間の連携を取る力を養い、母親への支援について自分の意見を持つことができるようになります。 			
テキスト	改定 小児保健実習／佐藤益子編著／みなみ書房／2,200円			
参考書	新保育所保育指針及び解説書／厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	<p>事前学習によるグループへの貢献度 10%</p> <p>グループワークへの参加度 10%</p> <p>実技テスト 20% 定期テスト60%</p> <p>により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者として重要な科目です。事前学習をしっかりと主体的参加をしてください。実技演習は何回でも繰り返し、自信が持てるようにしてください。グループワークでは他人の意見をよく聞き、まとめと発表の力をつけてください。予習・復習にも取り組んでください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 小児保健を学ぶ意義・保育・養護する専門職業人として必要な態度と技術
2 回	<小児保健> 小児保健を学ぶ意義・保健活動の計画
3 回	<対象の理解> 形態的発達・運動機能の発達・精神機能の発達
4 回	<観察技術 1> 身体計測と発育の評価
5 回	<観察技術 2> バイタルサインの測定と評価
6 回	<養護技術 1> 抱っこ・おんぶ・食事・口腔清潔
7 回	<養護技術 2> 排泄とトレーニング 沐浴・衣服の着脱
8 回	<症状に対する看護 1> 不機嫌・泣く・発熱・咳
9 回	<症状に対する看護 2> 下痢・嘔吐・腹痛・便秘
10 回	<病気への対応と予防> 感染症・食中毒・薬の与え方・手洗い
11 回	<事故防止と安全教育> 発達段階と事故・事故の予防
12 回	<応急処置 1> 外傷・出血・やけど・鼻血
13 回	<応急処置 2> 目、耳、鼻の異物・熱中症・意識障害
14 回	<救急法> 手当の基本・一次救命処置
15 回	<地域との連携協働> 障害をもったこどもの支援
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育原理	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	岡本妙子
授業概要	<p>「保育とは?」「子どもとは?」「保育士とは?」という問いかけに皆さんはどのように答えますか。誰もが子ども時代を過ごしましたが、今すぐにこれらについて論じることは難しいでしょう。これからの学習によって、専門的知識・技術として「保育」について学びます。この科目は「原理」という名称になっており、保育に関する基礎的な事柄を学習します。前期の授業が終わるときには、「保育とは」について述べるできるようになりましょう。</p>			
授業科目の目的	<p>現代の子どもをめぐる環境をふまえながら、保育の思想や歴史を理解したうえで、保育の現状と課題について具体的に考察します。保育者として、子どもや家庭と向き合い、乳幼児の特性に合った保育を実践する基礎的な力を総合的に培うことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義・意味について考え、述べる力を身につけ、保育実践と結びつけることができるようにします。 2. 保育の歴史と内容の変遷について理解し、認識できるようにします。 3. 保育学の基礎知識・理論を理解し、習得できるようにします。 4. 保育の現状と課題を理解し、論じることができるようになります。 5. 保育内容・方法と保育計画など、保育園等における保育活動の実際について説明することができるようにします。 			
テキスト	<p>コンパクト版保育者養成シリーズ 保育原理 新版/石橋哲也編著/一藝社 保育所保育指針/厚生労働省/フレーベル館 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館</p>			
参考書	<p>必要に応じて、プリント・資料を配付します。</p>			
成績評価基準	<p>定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%を総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者は乳幼児や家庭を支える貴重な役割を担っています。保育原理は、保育者としての資質を身につける基礎となりますので、確実に学習内容を習得しましょう。日本の保育の制度は大きな転換期にあります。新聞やニュースを通して、社会の中で求められる保育のニーズについて自ら学ぶ姿勢を持ち、考察し、積極的に学んでいきましょう。 15回の授業で学習する内容は多くあります。復習によって学習内容を定着させましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション 〈「保育」とは何か〉 保育の概念
2 回	〈保育の思想・歴史を学ぶ 1〉 西洋における保育の思想と歴史
3 回	〈保育の思想・歴史を学ぶ 2〉 日本における保育の思想と歴史
4 回	〈保育のねらいと内容〉 幼稚園教育と保育所保育のねらいと内容
5 回	〈保育所保育と家庭的保育〉 保育所保育と家庭的保育の特徴、家庭との連携
6 回	〈保護者との緊密な連携〉 保護者との連携の必要性と保護者支援
7 回	〈保育所保育指針と施設保育〉 保育所保育指針に基づく保育の質の向上
8 回	〈発達過程に応じた保育〉 子どもの発達と、その過程と個人差に応じた保育
9 回	〈環境を通して行う保育〉 子どもを取り巻く環境の変化と、保育の環境構成
10 回	〈保育者に求められる専門性〉 保育者の専門性、保育者倫理と資質の向上
11 回	〈生きる力の基礎を培う保育〉 子どもに見る生きる力の基礎と、それを培う保育の内容
12 回	〈生活と遊びを通しての保育〉 生活や遊びを通しての総合的な保育
13 回	〈保育における個と集団〉 個と集団を育む保育者の援助
14 回	〈保育の計画と評価〉 保育計画と保育実践及び保育における評価
15 回	〈日本の保育現状と課題〉 子ども・子育て支援新制度、幼・保・小の連携、今後の課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	<p>子どもは、家庭において安定して温かく養育されることが望ましいが、社会の変化や家族の在り方の変化の中で、家庭での子育てが難しいケースが多様化している。地域社会で生活しながらも、様々な困難のために福祉の制度による支援が必要な家庭もある。また、子どもの養育事態が困難な家庭は、児童福祉施設に子どもを託し、親子が離れて生活するケースもある。保育士は、このような社会的養護に専門職として関わる必要がある。社会的養護の理念と業務の実際について総合的に学習する。</p>			
授業科目の目的	<p>社会的養護をめぐる問題や理念や動向を基本に捉えながら、全ての子ども家庭を視野に入れた「新たな社会的養育システム」の構築に向けた制度のあり方を知るとともに、児童の人権を踏まえた保育や自立支援の在り方を理解することを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解します。 2. 社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護と自立支援について理解します。 3. 社会的養護における施設養護の体系、処遇展開を理解します。 4. 社会的養護施設で勤務する保育士の専門性および地域社会との関連性を理解します。 5. 社会的養護の現状と課題について認識します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的意義やその歴史の変遷を、児童家庭福祉政策や時代のニーズと関連づけて考えることができるようになります。 2. 児童家庭福祉との互換性と相違点についても理解し、分類することもできる。社会的養護における児童の権利の擁護を実践することができるようになります。 3. 社会的養護の仕組みと実施体系が理解できるようになります。 4. 施設養護における社会福祉援助技術について理解ができ、保育士としての実践につなげることができるようになります。 5. 社会的養護の現状と課題が理解できるようになります。 			
テキスト	保育者養成シリーズ 社会的養護／千葉茂明 編著／一藝社			
参考書	特になし			
成績評価基準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%を総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>子どもの養育には、社会の変化が大きく関わります。これから生きる子どもたちを支援する専門職としての力をつけるために、新聞や本を読み、基本的な知識を豊富に身につける必要があります。「自ら学ぶ姿勢」を大切に、一般常識を身につけるために、授業以外にも社会の動きに関心を持ち豊かな知識を獲得することが大切です。そして授業には予習・復習を必ず行い、学習内容の定着に向けて努力することを期待します。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<p><現代社会と社会的養護の意義> 社会的養護の理念、近年の社会的養護の方向性、社会的養護のニーズの変化</p>
2 回	<p><社会的養護と児童の権利擁護> 子どもの福祉と権利、「子どもの最善の利益」の保障、子どもの権利擁護の仕組み</p>
3 回	<p><社会的養護の歴史の変遷> イギリスの社会的養護の歴史、わが国の社会的養護</p>
4 回	<p><社会的養護の制度と法体系> 児童家庭福祉に関する施策、障害児や児童虐待に関する施策、ひとり親家庭やDVに関する施策、社会的養護に関わる機関</p>
5 回	<p><社会的養護の実施体制> 児童福祉法と実施体制の整備、児童家庭福祉の実施体系</p>
6 回	<p><社会的養護の領域と概要> 社会的養護の領域、里親制度、施設養護</p>
7 回	<p><社会的養護を必要とする子ども> 社会的養護での生活、施設を巣立つ子ども</p>
8 回	<p><要保護児童と児童相談所> 児童相談所の機能と役割、児童相談所の職員、措置の種類</p>
9 回	<p><社会的養護の基本的支援> 社会的養護の基本理念、社会的養護の共通原理、子どもの権利擁護</p>
10 回	<p><子どもの成長と小規模グループケア> 子どもの成長と発達の保障、小規模化と地域化</p>
11 回	<p><社会的養護のソーシャルワーク> 社会的養護に求められるソーシャルワーク、専門職と関係機関との連携</p>
12 回	<p><子どもと家庭の支援> 家族再統合の意義、家庭支援のプロセスとファミリーソーシャルワーカー</p>
13 回	<p><社会的養護と専門機関・地域資源> 地域の関係機関・教育機関との連携、アフターケアと地域資源の連携</p>
14 回	<p><社会的養護の専門職の理解> 社会的養護の専門性、専門職員の職種と資格</p>
15 回	<p><社会的養護施設の運営管理> 施設運営および組織、福祉サービスの提供</p>
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
精神保健	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
授業概要	<p>精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものであり、精神医学、身体医学、心理学、社会福祉学といった多岐にわたる領域から成り立つ科目となります。</p> <p>とくに、よく見受けられるこころの問題について解説を行います。また、学生の基礎的な知識の獲得と定着がしっかりとできているか、確認しながら授業を展開したいと思っています。</p> <p>さらに、精神保健が取り扱う領域や内容について説明しながら、適切なアプローチ方法、周囲への対応など実践についても学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>精神保健では、保育者がその専門活動に従事する中で関わりを持つ他機関との連携や協働を念頭に置き、基礎的な知識、科学的なエビデンスから学びを進めていきます。</p> <p>精神保健の実践は、単なる個人的な経験や感覚的な事柄に依拠して理解されるものではなく、系統的かつ体系的な知識の獲得が不可欠なものとなっていきます。</p> <p>そこで、精神保健では、精神疾患をはじめとするこころの健康問題について幅広く学ぶ機会を設け、どのようなアプローチの方法があり、どのような周囲への対応があるのかについて、理解できるようになることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の健康増進を図る精神保健活動の意義を説明することができるようにします。 2. 子どもの精神機能の発達と、その保健について知識を獲得することができるようにします。 3. 精神疾患とその予防・対応の視点を持ち、実践に応用することができるようにします。 4. 養育者への援助と対応について、イメージを持ち技術を獲得することができるようにします。 			
テキスト	随時配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こころの健康に関する問題は、特別なことではなく程度の差はあっても、誰もが抱える可能性があるものと言えます。また、自分自身は問題がなくても周囲の人がこころの健康を崩すこともあります。現代社会の中で保育の専門家として活動する際、精神保健の活動は重要な事柄になっていきます。ぜひとも、授業に真摯な姿勢で向き合い、子どもたちの精神保健だけでなく、養育者や周囲の人々の精神保健についても幅広く学びを深めていくことを期待しています。</p> <p>残念ながら、こころの健康にかかわる問題は、誤解した理解が多く、それにより人を傷つけてしまうこともあります。科学的な根拠に基づく知識を身につけられるように、予習・復習に取り組む真摯な姿勢を徹底し、さらに、こころの健康問題と、どのように向き合っていくかを考えてほしいと思います。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション・精神保健とは1> 精神保健のねらい
2 回	<精神保健とは2> こころの健康とはなにか／子ども達のメンタルヘルスと教育現場の取り組み
3 回	<精神保健とは3> こころの健康とストレス
4 回	<精神保健の基礎1> 生理学的背景・要因（脳・神経系の仕組みと機能）
5 回	<精神保健の基礎2> 心理社会的な背景・要因
6 回	<精神保健の基礎3> 精神症状を読み解く／精神症状の6つのグループ
7 回	<発達と精神保健> 胎児期・乳児期、幼児期・児童期の発達と精神保健
8 回	<こころの問題1> 基本となる10の疾患(1)
9 回	<こころの問題2> 基本となる10の疾患(2)
10 回	<こころの問題3> 子どもの頃から現れやすい問題 神経性習癖／分離不安
11 回	<こころの問題4> うつ症状・摂食障がい（子どもと大人の同じところと違うところ）
12 回	<こころの問題5> 強迫性障がい・睡眠障がい
13 回	<精神保健活動1> 母子の精神保健：子育て支援とこころの健康づくり
14 回	<精神保健活動2> 地域精神保健活動と保育：様々な診断方法、検診
15 回	<精神保健活動3> 精神保健活動における保育者の役割
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの食と栄養	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	岡崎典子
授業概要	現場の事例や演習を交え、自分の食生活も含めて食に対するあり方・態度を考えることのできる授業にしていきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎栄養学をもとに、小児における栄養の特性と重要性を、現代社会における問題も含めて、理解します。 2. 食育の重要性を理解し、食育の実践力のある保育士を養成します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 五大栄養素の栄養生理について理解することができるようになります。 2. 小児にとって適切な食事の献立内容を理解し、作成することができるようになります。 3. 小児の栄養生理について理解することができるようになります。 4. 母乳の意義について理解することができるようになります。 5. 離乳の意義・実際について理解し、料理作業に活かす力を養うことができるようになります。 6. 幼児期の栄養の意義について理解し、献立作成調理の実践に活かす力を養うことができるようになります。 7. 学童期・思春期の栄養意義について理解することができるようになります。 8. 集団給食と献立について理解することができるようになります。 9. 小児の特徴的な疾患の食の対応について理解することができるようになります。 10. 障害を持つ子どもの特徴と食の対応について理解することができるようになります。 11. 食育の重要性を理解し、積極的に進められる力をつけることができるようになります。 			
テキスト	子どもの食と栄養演習 4版／小川雄二編著／建帛社 新食品成分表フーズサポーター (CD-ROM)付／新食品成分表編集委員会／東京法令出版			
参考書				
成績評価基準	小論文・レポート作成・定期試験・授業態度を総合的に判定する。定期試験 55%、提出物 25%、授業態度 20%とする。			
受講の心構えとメッセージ	小児における食べ方をめぐる問題は、その子の一生だけでなく次世代、その次の世代へ続く重要な問題です。また、食育基本法も施行され、社会的にも食に対する姿勢が大きく問われています。まず、自己の食生活を見つめ、指導の実践につなげられる力をしっかりつけられるよう真剣に学んでください。予習・復習にも取り組み学びを深めてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<栄養素・生理・代謝 1> 炭水化物の栄養生理代謝	16 回	<演習 離乳期の食事 2> 調乳および離乳食の調理実習
2 回	<栄養素・生理・代謝 2> 脂質・タンパク質の栄養生理代謝	17 回	<学童・思春期の栄養> 学童期と思春期の生理と食生活の実際
3 回	<栄養素・生理・代謝 3> 水とミネラルの働き・ビタミンの働き	18 回	<演習 幼児期の食事> 幼児のお弁当とおやつの調理実習
4 回	<栄養摂取基準> 栄養摂取基準を理解し使えるようになる	19 回	<演習 幼児期の食事> 幼児のお弁当とおやつの調理実習
5 回	<食品と食生活の基礎知識> 食品の特性を理解するとともに食生活の基礎的な考え方を深める	20 回	<給食 理論> 給食の目的・あり方
6 回	<献立作成 1> 献立作成演習	21 回	<障害をもつこどもの食事> 障害の特徴と食生活の具体対応
7 回	<献立作成 2> 献立作成演習	22 回	<小児の健康をめぐる問題 1> アレルギー・感染症などの食事対応と考え方
8 回	<食をめぐる問題とこれからの課題 1> 地域における施設の役割と実践演習	23 回	<小児の健康をめぐる問題 2> 若年者に多い生活習慣病の原因と食事対応
9 回	<小児の栄養> 家庭や地域における食生活の実態と小児の食生活のあり方	24 回	<食育の基本と内容 1> 食育基本法・保育所食事指針等
10 回	<小児の栄養生理 1> 食欲の仕組み	25 回	<食育の基本と内容 2> 食育における養護と教育・保護者支援
11 回	<小児の栄養生理 2> 味覚の発達と嗜好の形成	26 回	<食育の実際> 食育計画と評価
12 回	<授乳期の栄養> 母乳栄養の意義と実際	27 回	<食育計画の作成 演習> 保育所における食育年間指導計画の作成
13 回	<離乳期の栄養> 離乳の意義と離乳食の実際	28 回	<食育演習> 給食だよりなど食育媒体の作成
14 回	<幼児期の栄養> 幼児期の生理と食生活の実際	29 回	<食育のための環境> 地産地消の意義と実践・栽培の実践
15 回	<演習 離乳期の食事 1> 調乳および離乳食の調理実習	30 回	<食をめぐる問題とこれからの課題 2> 地球環境・食料自給
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
障害児保育	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	岡本 妙子
授業概要	近年、保育の現場では、発達への支援を必要とする子どもたちに対応する力が求められています。保育者は、様々な障害の特性と、子どもたちの個性に応じた「可能性」を引き出す関わり方について深く理解することが必要です。発達の遅れや障害の実態は、個々のケースによって多様です。それぞれの障害について学んだことを基礎として、応用力を持って一人ひとりに対応していく力を習得していきます。			
授業科目の目的	障害児保育を支える理念や歴史の変遷を踏まえ、発達の遅れや障害のある子どもに対する理解を深めます。さらに基本的な療育の実際、家庭への支援、関係機関との連携について、具体的に考察し習得することを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念について理解し、言葉で説明できるようにします。 2. 多様な障害について理解し、その特性から支援に結びつけることができるようにします。 3. 多様な障害に対応した保育計画の内容の読み取りができるようにします。 4. 障害のある子どもの保護者への支援について理解できるようにします。 5. 他機関・他職種との連携のあり方が論じられるようにします。 			
テキスト	コンパクト版保育者養成シリーズ障害児保育／青木 豊編著／一藝社 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館			
参考書	必要に応じて、プリント・資料を配付します。			
成績評価基準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの貢献度20%、課題レポート20%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育者による障害のある子どもへの適切な対応は、その子どもの生涯の生活をより良いものにしていきます。さらに特別な支援を必要とする子どもへの適切な保育は、他の子どもにとっても質の高い保育となります。</p> <p>また、新聞やニュースを通して、障害児をとりまく社会環境の実態や変化に自ら関心を持つことも必要です。演習やグループワークも含めて、主体的に学び取る姿勢を持ち、予習・復習により学び深めてください。</p>			
その他事項				

授業内容進行表

1 回	＜障害の理解＞ 障害のとらえ方と障害観の変遷
2 回	＜障害児保育の理念と形態＞ 障害児保育の理念の変遷
3 回	＜障害児保育の現状と課題＞ 厚生労働省・文部科学省管轄の施設
4 回	＜わが国の障害児保育の歴史＞ 障害児保育の歴史の変遷と現代の課題
5 回	＜肢体不自由児、視覚・聴覚障害児の理解と援助＞ 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児の特性と必要な支援
6 回	＜知的障害児の理解と援助＞ 知的障害児の特性と必要な支援
7 回	＜言語障害児の理解と援助＞ 言語障害児の特性と必要な支援
8 回	＜発達障害児の理解と援助＞ 発達障害児の特性と必要な支援
9 回	＜「気になる子ども」の理解と援助＞ 「気になる子ども」の実態と支援
10 回	＜集団活動・生活習慣の援助＞ 障害のある子どもへの集団活動の援助と基本的生活習慣の定着にむけた支援
11 回	＜保育計画の作成と協働＞ 個別の保育計画作成の方法と配慮
12 回	＜保護者・家庭への支援＞ 障害のある子どもを育てる保護者と家族への援助
13 回	＜関連機関との関係＞ 障害児に関わる福祉・教育施策と関係機関との連携
14 回	＜障害児保育に関わる施策上の課題＞ 就学に向けた継続的な支援
15 回	＜障害児保育の事例演習＞ 障害の早期発見と保育の展開
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
地域ボランティア	1～2年・通年	演習	30時間 (1単位)	西村 豊
授業概要	<p>地域における交流行事や福祉施設等における補助・援助、または各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行います。</p> <p>まず初めに、1年前期の事前指導において留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項等について説明します。自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容等を決め、実際に活動します。活動後は、所定の活動日誌をすみやかに作成・押印し、担当教員等の確認印を受けて提出します。</p> <p>その後、2年後期に、事後指導を受けながら活動の成果や課題について考察し、活動報告書を提出した上で、最終的に2年後期の終了時に単位認定をします。</p>			
授業科目の目的	<p>本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきました。</p> <p>すなわち本授業では、社会の一員としての学生の「人間力」を培う活動に対し、また学生の努力に対してそれらに報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ることをその目的としています。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動を通じて、地域社会を担っていく力の育成を目指します。 2. 他者や社会の利益のために活動することが学生自身の楽しさや喜びとなり、延いてはコミュニケーション能力を高める等の人間的成長となることを目指します。 			
テキスト	必要に応じてプリント教材を配付します。			
参考書	<p>ボランティア活動の基礎と実際／米山岳廣編著／文化書房博文社／2,052円</p> <p>ボランティア まるごとガイド／安藤雄太監修／ミネルヴァ書房／1,620円</p> <p>ボランティアのすすめー基礎から実践までー／岡本榮一監修／ミネルヴァ書房／2,592円</p>			
成績評価基準	ボランティア活動事前・事後指導の授業への「授業態度」20%、「ボランティア活動合計時間」70%、「活動日誌と活動最終報告書」10%により評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>「ボランティア」は誰か人のためにするものと思われがちです。一方、社会と関わることで初めて自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、また今までとは違った自分に気づいたりするものです。「ボランティア活動」は卒業後、社会に出られる皆さんの大きな力となるものと確信しています。</p> <p>皆さんの自主的で楽しい活動を大いに期待しています。</p>			
その他事項	「活動日誌」はボランティア活動終了後、すみやかに担当者まで提出してください。			

授業内容進行表

1 回	<ボランティア活動事前指導1> ボランティア活動の「意義」と「定義」について
2 回	<ボランティア活動事前指導2> ボランティア活動に関する「事例」・「活動日誌」・「報告書」について
3 回	ボランティア活動（各自）
4 回	ボランティア活動（各自）
5 回	ボランティア活動（各自）
6 回	ボランティア活動（各自）
7 回	ボランティア活動（各自）
8 回	ボランティア活動（各自）
9 回	ボランティア活動（各自）
10 回	ボランティア活動（各自）
11 回	ボランティア活動（各自）
12 回	ボランティア活動（各自）
13 回	<ボランティア活動事後指導1> ボランティア活動の「感想」と「反省」について
14 回	<ボランティア活動事後指導2> ボランティア活動の「成果」と「課題」について
15 回	<ボランティア活動事後指導3> ボランティア活動の「報告書」作成および「全体総括」と「まとめ」について
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅰ	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇・舞踊・人形劇・運動遊び・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習 1 C・Eグループ：練習 1 Dグループ：作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り 1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究 1	17 回	A・Bグループ：実演練習 2 C・Eグループ：練習 2 Dグループ：作品の準備、練習 7
3 回	A・Bグループ：台本作り 2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究 2	18 回	A・Bグループ：実演練習 3 C・Eグループ：練習 3 Dグループ：作品の準備、練習 8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 1 C・Eグループ：脚本づくり 1 Dグループ：運動遊びの研究 3	19 回	A・Bグループ：実演練習 4 C・Eグループ：練習 4 Dグループ：作品の準備、練習 9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 2 C・Eグループ：脚本づくり 2 Dグループ：運動遊びの研究 4	20 回	A・Bグループ：実演練習 5 C・Eグループ：練習 5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 3 C・Eグループ：製作 1 Dグループ：運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 4 C・Eグループ：製作 2 Dグループ：運動遊びの研究 6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 1 (春の自然食材)	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 5 C・Dグループ：製作 3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 2 (秋の自然食材)
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 6 C・Eグループ：製作 4 Dグループ：作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 7 C・Eグループ：製作 5 Dグループ：作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 8 C・Eグループ：製作 6 Dグループ：作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 9 C・Eグループ：製作 7 Dグループ：作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作 8 Dグループ：作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
			【定期試験】 有 ・ (無)

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅱ	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇・舞踊・人形劇・運動遊び・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働での実践体験により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習 1 C・Eグループ：練習 1 Dグループ：作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り 1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究 1	17 回	A・Bグループ：実演練習 2 C・Eグループ：練習 2 Dグループ：作品の準備、練習 7
3 回	A・Bグループ：台本作り 2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究 2	18 回	A・Bグループ：実演練習 3 C・Eグループ：練習 3 Dグループ：作品の準備、練習 8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 1 C・Eグループ：脚本づくり 1 Dグループ：運動遊びの研究 3	19 回	A・Bグループ：実演練習 4 C・Eグループ：練習 4 Dグループ：作品の準備、練習 9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 2 C・Eグループ：脚本づくり 2 Dグループ：運動遊びの研究 4	20 回	A・Bグループ：実演練習 5 C・Eグループ：練習 5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 3 C・Eグループ：製作 1 Dグループ：運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 4 C・Eグループ：製作 2 Dグループ：運動遊びの研究 6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 1 (春の自然食材)	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 5 C・Dグループ：製作 3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 2 (秋の自然食材)
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 6 C・Eグループ：製作 4 Dグループ：作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 7 C・Eグループ：製作 5 Dグループ：作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 8 C・Eグループ：製作 6 Dグループ：作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 9 C・Eグループ：製作 7 Dグループ：作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作 8 Dグループ：作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
			【定期試験】 有 ・ (無)

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅲ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇・舞踊・人形劇・運動遊び・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働で、また上級生として責任感を持った実践活動により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級生として下級生を指導する立場で積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 上級生である自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習 1 C・Eグループ：練習 1 Dグループ：作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り 1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究 1	17 回	A・Bグループ：実演練習 2 C・Eグループ：練習 2 Dグループ：作品の準備、練習 7
3 回	A・Bグループ：台本作り 2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究 2	18 回	A・Bグループ：実演練習 3 C・Eグループ：練習 3 Dグループ：作品の準備、練習 8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 1 C・Eグループ：脚本づくり 1 Dグループ：運動遊びの研究 3	19 回	A・Bグループ：実演練習 4 C・Eグループ：練習 4 Dグループ：作品の準備、練習 9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 2 C・Eグループ：脚本づくり 2 Dグループ：運動遊びの研究 4	20 回	A・Bグループ：実演練習 5 C・Eグループ：練習 5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 3 C・Eグループ：製作 1 Dグループ：運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 4 C・Eグループ：製作 2 Dグループ：運動遊びの研究 6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 1 (春の自然食材)	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 5 C・Dグループ：製作 3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 2 (秋の自然食材)
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 6 C・Eグループ：製作 4 Dグループ：作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 7 C・Eグループ：製作 5 Dグループ：作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 8 C・Eグループ：製作 6 Dグループ：作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 9 C・Eグループ：製作 7 Dグループ：作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作 8 Dグループ：作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
			【定期試験】 有 ・ (無)

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
特別研究Ⅳ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身に付くような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、5グループ（演劇・舞踊・人形劇・運動遊び・大型絵本）に分け、複数の教員が各グループを担当し、子どもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。さらに、学習の成果を地域の子どもたちに大学行事「こどもフェスタ」を通して上演し交流を図ります。また、食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、地元の食材を使った伝統的な調理体験も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>1年生と2年生が協働で、また上級生として責任感を持った実践活動により、下記の保育者に必要な力をつけることを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得します。 2. 実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。 3. 実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培います。 4. 1年生、2年生そして教員、さらにはゲストスピーカーの方など、異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養います。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級生として下級生を指導する立場で積極的に授業に臨み、日々の課題に対する関心などを持ち行動することができます。（関心・意欲・態度） 2. 企画から発表に向けた計画を立てると共に実践することができるようになります。（思考・判断） 3. 上級生である自分の役割を踏まえて、責任感と協調性を持って授業に臨むことができます。（協調性） 4. 課題に沿った製作物等を作ったり、演技などで表現したりすることができるようになります。（製作物や演技などの内容や発表） 			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	各グループで必要な参考書を紹介します。			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関心・意欲・態度（授業態度や日々の課題に対する意欲・関心など）：25% 2. 思考・判断（企画力・創造力・実践力など）：25% 3. 協調性（協力・責任感など）：25% 4. 製作物や演技など内容や発表（製作・表現・発表力など）：25% 			
受講の心構えとメッセージ	<p>各自の役割を責任をもって実行することと一人ではできない作品を主体性をもって仲間とともに創り上げ、協調性を身に付けましょう。</p> <p>そして意欲的に取り組み表現することで、保育者としての基本的な技能・技術を身に付けましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：演劇、Bグループ：舞踊、Cグループ：人形劇、Dグループ：運動遊び、Eグループ：大型絵本)	16 回	各グループ：進捗状況の確認と後期の課題 A・Bグループ：実演練習 1 C・Eグループ：練習 1 Dグループ：作品の準備、練習 6
2 回	各グループで活動計画の設定 A・Bグループ：テーマ設定・台本作り 1 C・Eグループ：テーマの設定 Dグループ：運動遊びの研究 1	17 回	A・Bグループ：実演練習 2 C・Eグループ：練習 2 Dグループ：作品の準備、練習 7
3 回	A・Bグループ：台本作り 2 C・Eグループ：作品決定 Dグループ：運動遊びの研究 2	18 回	A・Bグループ：実演練習 3 C・Eグループ：練習 3 Dグループ：作品の準備、練習 8
4 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 1 C・Eグループ：脚本づくり 1 Dグループ：運動遊びの研究 3	19 回	A・Bグループ：実演練習 4 C・Eグループ：練習 4 Dグループ：作品の準備、練習 9
5 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 2 C・Eグループ：脚本づくり 2 Dグループ：運動遊びの研究 4	20 回	A・Bグループ：実演練習 5 C・Eグループ：練習 5 Dグループ：作品の準備、練習10
6 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 3 C・Eグループ：製作 1 Dグループ：運動遊びの研究 5	21 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 1
7 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 4 C・Eグループ：製作 2 Dグループ：運動遊びの研究 6	22 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 2
8 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 1 (春の自然食材)	23 回	A・B・C・D・Eグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル 3
9 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 5 C・Dグループ：製作 3 Dグループ：発表作品決定	24 回	A・B・C・D・Eグループ：食育研究・調理実習 2 (秋の自然食材)
10 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 6 C・Eグループ：製作 4 Dグループ：作品の準備、練習 1	25 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 1
11 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 7 C・Eグループ：製作 5 Dグループ：作品の準備、練習 2	26 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 2
12 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 8 C・Eグループ：製作 6 Dグループ：作品の準備、練習 3	27 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」オープニング、エンディングの練習 3
13 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作 9 C・Eグループ：製作 7 Dグループ：作品の準備、練習 4	28 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」上演リハーサル
14 回	A・Bグループ：衣装・道具の製作10 C・Eグループ：製作 8 Dグループ：作品の準備、練習 5	29 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」にて上演
15 回	A・B・C・D・Eグループ：まとめ	30 回	A・B・C・D・Eグループ：「こどもフェスタ」記録映像の鑑賞と反省会 (活動の振り返り) A・B・C・D・Eグループ：報告集づくり
			【定期試験】 有 ・ (無)

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教職論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	原田敬文
授業概要	<p>本授業は望ましい教職者(保育者)に求められる資質とはどのようなものか、それを身につけるために必要な学びを深めることが目的です。</p> <p>具体的な授業内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置づけ、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助のあり方、教職者間の協議、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携・チーム学校などです。理論に基づいた実践、事例で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業を展開していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>教職(保育)は子どもの成長発達に指導、援助する仕事です。そのためには子どもの学ぶ意欲を高め、知的好奇心を醸成し、人間関係を豊かにする授業を創り出すことが教職論の重要な目標となります。教職者は保育への課題に感心を持ち、授業に関わる専門性について学ぶとともに、あるべき保育教育のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す教職者像の確立することが求められます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職者(保育者)の役割と倫理について理解できるようにします。 2. 教職者(保育者)の専門性について理解できるようにします。 3. 幼児の発達と成長について理解できるようにします。 4. 教育・保育の目標・ねらい・内容について理解できるようにします。 5. 教育・保育の法的、制度的な位置づけについて理解できるようにします。 6. 家庭や小学校との連携について理解できるようにします。 			
テキスト	保育者論【新版】／小田 豊等編著／北大路書房			
参考書	幼児学用語集／小田 豊等監修／北大路書房 保育所保育指針および解説書／フレーベル館 幼稚園教育要領および解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書／フレーベル館			
成績評価基準	試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業では、教職者(保育者)に求められる素質を中心に学ぶこととなります。この学びは、これから教育現場、保育現場で働く皆さんにとって、習得しておかなければならないことばかりです。</p> <p>また、本授業では、みなさんの考えを求めることも多くあります。自分の考えを整理して、わかりやすく伝えられるよう取り組んでください。</p> <p>みなさんが、本学を卒業する時は、「守られる人から守る人」へ変容できるように、覚悟を決めて学習しましょう。</p>			
その他	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。			

授業内容進行表

1 回	教職者(保育者)の意義・教職者とは何か
2 回	教職者(保育者)に求められる資質・能力、子ども理解の意味
3 回	教員養成の歴史
4 回	教職者(保育者)の資質と役割
5 回	指導計画(保育のねらい・内容) (幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)
6 回	教職者(保育者)の仕事
7 回	教職者(保育者)の研修
8 回	教職者(保育者)の職場環境
9 回	教職者の任用と服務
10 回	先人から学ぶ教職論
11 回	教職者の制度的位置づけ
12 回	全体計画としての教育課程と評価
13 回	家庭や小学校との連携・チーム学校
14 回	教育実習の目的や内容
15 回	よい教職者(保育者)になるために
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育原理	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	稲田達也
授業概要	<p>本授業は「教育の原理」を全体的な主題とし、人間を教育へと向かわせる原理、「なぜ教育するのか」と、教育に関する基礎的な理論、「何のために教育するのか」および「どのように教育するのか」を学習します。教育の思想とその作用、また我が国の教育制度と歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めることを目標とします。</p> <p>授業では、「教育」全般に関わる様々なテーマを扱いますが、特に、こどもの発達、保育・教育の法制度、教育課程と教育方法、教育の歴史、といった分野などの基本的な知識を習得し、みずから今日的課題と今後の展望について考察できる力の育成をめざしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度と歴史について学ぶことにより、教育の課題と可能性についての理解を深めることを目標とします。</p> <p>教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想などについての、基本的な原則や理論的な基礎などを理解することで、「教育とは何か」というテーマに対し、自身の考えを考察し、将来の保育者、教職者としての基本を身に付けることを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の教育制度の歴史、理念を理解することができるようになります。 2. 保育・教育の法制度、教育課程、教育方法についての基礎知識を習得することができるようになります。 3. 保育・教育の課題と可能性について、自らの考えを伝えることができるようになります。 4. 生涯学習社会における教育の在り方についての自らの考えを伝えることができるようになります。 			
テキスト	教育原理～保育・教育の現場をよりよくするために～／石上浩美・矢野正 編著／嵯峨野書院／2018年			
参考書	<p>幼児学用語集／小田 豊等監修／北大路書房／2013年</p> <p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書／フレーベル館</p>			
成績評価基準	試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業では、保育・教育現場の基本的知識については講義形式で行いますが、保育・教育の今日的課題、今後の展望については、ディスカッションを多く取り入れます。</p> <p>常に新聞やニュースなどをみて、保育や教育現場の動向にアンテナをはっておいてください。</p> <p>学習内容に漏れが生じないように、予習・復習についても積極的に学習に取り組むようにしてください。</p>			
その他事項	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。			

授業内容進行表

1 回	なぜ教育を学ぶのか（専門家としての心構え）
2 回	教育・保育とは何か（理念と意義）
3 回	教育・保育とは何か（教育と児童福祉の関連性）
4 回	教育の実践1（教育内容、教育方法）
5 回	教育・保育の作用（教育計画と保育内容） 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
6 回	教育・保育の思想（ソクラテス、コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、ヘルバルト、他）
7 回	教育・保育の思想（フレーベルと幼児教育、デューイの児童中心主義、ブルームと教育評価）
8 回	教育・保育の制度（教育法規と制度の基本）
9 回	教育・保育の制度（保育所と幼稚園、諸外国の教育制度）
10 回	教育・保育の制度（学校教育と教師論）
11 回	教育の歴史の変遷（近代公教育制度の成り立ち）
12 回	教育の歴史の変遷（戦前・戦後の教育比較）
13 回	教育の実践2（教育計画と評価）
14 回	教育の実践3（教育実践の多様な取り組み）
15 回	生涯学習社会における教育
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育心理学	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	野口和也
授業概要	<p>教育心理学の主な領域は、発達・学習・教授・性格・適応・測定・評価から成り立っています。その領域に満遍なく触れながら、本講義では、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え、捉え方を紹介します。学習や動機付け、人間関係、教育評価といった教育心理学の中心となる内容とともに、信頼関係の基礎となるカウンセリングマインドなどについても発展させていきます。心理学という枠組みからの理解や考え方を学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。発達・学習・教授・性格・適応・測定・評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。また、現代に生きる子どもたちの保育・教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基本的な知識をもとに専門家として保育実践、発達援助に生かしていける力量の担保を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達・学習・教授・性格・適応・評価にかかわる教育心理学の基礎的な事項を理解し、その特徴を説明することができるようにします。 2. 生活、教育・保育場面を心理学の観点から見つめ分析し、保育実践に応用することができるようにします。 3. 多様な学びを通した子どもたちの心身の育ちの過程について、論じることができるようにします。 			
テキスト	<p>随時配付します。</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 学びと教えで育つ心理学－教育心理学入門－／小林芳郎編著／保育出版社／2011年</p>			
成績評価基準	<p>授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>子ども達が「学ぶこと」、そして「教えること」「育てること」は、「保育」「教育」に携わる人々にとって、とても身近でとても重要な活動になります。ぜひ、一緒に一歩ずつ、考えていければと思います。</p> <p>また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。しっかりと実感を持ちながら、学んでほしいと願っています。</p> <p>保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずで、毎回指示していく予習・復習に取り組み、実践に結びつく生きた知識を得てほしいと心から期待しています。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 教育心理学の領域と目的・研究方法
2 回	<子どもの発達1> 発達の原理・段階と個人差
3 回	<子どもの学び1> 学習理論/レスポナント条件付け
4 回	<子どもの学び2> オペラント条件付け
5 回	<子どもの学び3> 観察学習/洞察
6 回	<子どもの意欲1> 動機づけとは何か/自己効力感
7 回	<子どもの意欲2> 原因帰属/学習性無力感
8 回	<パーソナリティ1> 類型論/特性論/精神分析理論
9 回	<パーソナリティ2> 性格検査/適正処遇交互作用
10 回	<子どもの発達2> 人間関係の発達/社会性・道徳性の発達
11 回	<学級集団での学び：どのように教えるか> 学習指導と教授法/発見学習/プログラム学習
12 回	<子どもの適応1> 適応とは何か/欲求とその種類
13 回	<子どもの適応2> 欲求不満と適応機制
14 回	<発達援助と協働> 保育者として人と向き合うための技術：マイクロカウンセリング
15 回	<評価する> 教育評価の意義と方法/診断的評価・形成的評価・総括的評価
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
発達心理学	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
授業概要	はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。生涯発達という視点に立ち、こころとからだ、ことば、考える力などの発達を学び、加えて保育実践を行う上で重要な話題を取り上げながら学びを深めていきます。また、子どもたちひとり一人に寄り添う、より良い保育を提供するために、特別な支援を必要とする子どもへの支援・援助についても解説します。			
授業科目の目的	<p>保育において心理学という学問を扱う意味はどのようなものであるか、この授業では保育において心理学を学ぶ意義について理解していきます。</p> <p>発達心理学では、子どもと取り巻く環境との密接な相互のかかわりを通じて、発達が進んでいくことを理解することが要となります。そのために心理学における人や行動、ものの見方、考え方を学ぶことが目的となります。</p> <p>保育者として発達に見合った適切かつ確かな保育を行うために、生涯にわたり続いていくという観点から人間の発達の過程と特徴について理解していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育にかかわる心理学の知識を習得し、保育実践と関連づけることができるようにします。 2. 心理学的な理解を行うための、人、行動、ものの見方、考え方を学び、それらを基礎として、子どもの発達を論じることができるようにします。 3. 生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達における人との相互作用の重要性について理解し説明することができるようにします。 			
テキスト	随時、配付します。			
参考書	<p>幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 保育の心理学Ⅰ／柳生崇志・梅崎高行編著／大学図書出版／2013年</p>			
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>発達心理学は、私たち誰もが歩んできた人生と重なり関係する話題が多く含まれる授業になります。そして、心理学という人のこころを学ぶ学問では、自分自身を振り返り考えを巡らし、“確かな学びを得る”ことが“かんじんかなめ”となります。</p> <p>授業では、私たち人の発達に関する、知識とともに各段階での特徴を提供していきます。幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現させながら、一緒に学んでいきましょう。確かな学びの獲得に向けて、その都度、伝えていく予習・復習にしっかり取り組むことを忘れずに行ってください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 保育の中の心理学／子どもを理解するとは
2 回	<保育と心理学> 保育における心理学の位置づけ／発達観
3 回	<初期経験の重要性> 気質と環境／文化
4 回	<基本的信頼感の獲得> 愛着とはなにか／ホスピタリズム
5 回	<発達とは何か1> 誕生から乳幼児期まで
6 回	<発達とは何か2> 児童期から老年期まで
7 回	<生涯発達の諸理論> 心理社会的発達理論／発達課題
8 回	<こころの育ち1> 情動の発達と自我
9 回	<こころの育ち2> 自己表出とこころの理論の発達
10 回	<からだの育ち> 身体発育／原始反射からはじまる運動発達
11 回	<考える力の育ち> ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作
12 回	<ことばの育ち> 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期
13 回	<特別な支援ニーズと援助> 特別な支援を要するこどもへの援助
14 回	<保育実践の評価と心理学> 発達の最近接領域／実践を振り返る
15 回	<まとめ> 人の育ちと環境との相互作用の意義
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと文化	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	小 西 律
授業概要	<p>保育現場で使用されるこどもの文化財について、理論を踏まえ、役に立つ技術を身につけること、こども達が文化によって夢や希望を与えられるだけではなく、自らが文化を創り出す活動や表現が出来るようにすること、この両面を視野に入れた学習を行います。その上で、絵本、紙芝居、パネルシアター、折り紙などの文化財、伝統文化・遊びなどを取り上げ、実践に重きをおいた授業を展開します。</p>			
授業科目の目的	<p>1. こども達の生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などはどのようなものであるか、こどもが豊かに育ち行くに好ましい文化のあり方、意義について理解することを目的とします。 2. 保育現場で使用される文化財の中で、言語を媒介とする教材を取り上げ、実践による保育技術の習得を図り、実践からそれらがこどもの生活経験と深く関わることを体得することを目的とします。</p>			
学習成果	<p>1. 絵本、紙芝居、劇あそびなど保育の場で使用されるこどもの文化財が持つ特性、意義を説明できるようにします。 2. 保育の場で使用される文化財についてその内容及び保育技術が獲得できるようにします。 3. 絵本、紙芝居などの実践からこどもの言葉、情緒を豊かに育くむこととの関連性が認識できるようにします。</p>			
テキスト	<p>こどもと文学／小西律／豊岡短期大学 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>かならず折れるおりがみ①②③／小林一夫監修／ひかりのくに／2005年／本体800円 読み聞かせ この素晴らしい世界／ジム・トレリス、亀井よし子訳／高文研／1,365円</p>			
成績評価基準	<p>定期試験 20%、授業・課題、提出物に取り組み姿勢20%、課題・提出物(復習課題・レポート)20%、実践 40%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育の場でこどもの文化の占める範囲は広く、ここまででよいと制限出来るものではありません。日々、使用される絵本、紙芝居、折り紙などは一見すると、その場で簡単に出来そうにみえます。ですが、実際はそうではありません。これらは具体物を使用するがゆえに、読めばよい、折ればよいものと安易に思われてしまう危険性を孕んでいます。こどもの日々の生活や成長を考えながら心して選択し、準備しておくことが大切なのです。繰り返しますが、その場で出来るというものなどではないのです。</p> <p>こども達の育みを豊かにするためにどのような文化が必要なのかを常に考え、繰り返し練習をし、私はこれだったら絶対大丈夫というものが身に付くことを目標に授業に臨んでください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<こどもと文化の関わり> 意義、歴史、成長・発達と遊び、玩具	16 回	<紙芝居 2> 上演の仕方、手直し、練習
2 回	<視聴覚教材について> テレビ、ゲーム、コンピュータの効用と課題	17 回	<紙芝居 3> 紙芝居の上演 (1)
3 回	<伝統文化とこども 1 折り紙(1)> 意義、折り紙の基礎、小動物、小物	18 回	<紙芝居 4> 紙芝居の上演 (2)
4 回	<伝統文化とこども 2 折り紙(2)> こどもと五節句、歴史、端午	19 回	<紙芝居 5> 紙芝居の上演 (3)
5 回	<伝承あそび> 伝承あそびとは、歴史、あやとりなど	20 回	<紙芝居 6> 紙芝居の上演 (4)
6 回	<絵本 1> こどもと絵本、絵本とは、絵本の種類、絵本の選び方、読み聞かせの方法と留意点	21 回	<伝統文化とこども 4 折り紙(4)> 玩具、紙鉄砲、飛行機
7 回	<絵本 2> 絵本の読み聞かせ (1) 実践	22 回	<お話 1> 意義、選び方 語り聞かせの方法と留意点
8 回	<絵本 3> 絵本の読み聞かせ (2) 実践	23 回	<お話 2> 絵本・民話とお話、素話について
9 回	<絵本 4> 絵本の読み聞かせ (3) 実践	24 回	<パネルシアター 1> こどもとパネルシアター、意義、制作の仕方と留意点
10 回	<絵本 5> 絵本の読み聞かせ (4) 実践	25 回	<パネルシアター 2> 制作 (1)
11 回	<絵本 6> 絵本の読み聞かせ (5) 実践	26 回	<パネルシアター 3> 制作 (2)、上演の仕方、練習
12 回	<ペープサート 1> 意義と制作の仕方	27 回	<パネルシアター 4> パネルシアターの上演 (1)
13 回	<ペープサート 2> 制作	28 回	<パネルシアター 5> パネルシアターの上演 (2)
14 回	<ペープサート 3> 上演	29 回	<伝統文化とこども 5 折り紙(5)> 節分、雛祭り
15 回	<伝統文化とこども 3 折り紙(3)> 七夕 <紙芝居 1> 意義と歴史、制作の仕方	30 回	絵本、紙芝居、ペープサート、1年間を通してのレポートと作成とまとめ
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育課程論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	宿南久美子
授業概要	教育課程・保育課程とは、幼稚園・保育所・認定こども園が、どのようなこと（教育・保育目標）を大切にして、どのような方法（教育・保育方針）で、どのようなこと（教育・保育内容）を、どの時期（教育・保育期間）にしていくかという全体計画であり、保育の羅針盤ともいえるものです。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。			
授業科目の目的	幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるか、またどのような要素から構成されているのかを理解することを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解することができるようにします。 2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得することができるようにします。 3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解することができるようにします。 4. 保護者や関係機関との連携について学ぶことができるようにします。 			
テキスト	必要に応じて、プリントを配付します。			
参考書	教育課程・保育計画総論／ミネルヴァ書房 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	授業態度・意欲30%、課題・レポート10%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	教育課程・保育課程は、教育・保育のあり方や内容を定めるものです。保育者としての意識をより高めるよう予習・復習を心がけるとともに、積極的・主体的な授業参加をしてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	＜オリエンテーション＞ 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2 回	＜教育（保育）課程の基礎理論＞ 教育（保育）課程の意義と必要性
3 回	＜教育（保育）課程の構造＞ 教育（保育）課程編成の前提・基盤
4 回	＜幼稚園の教育課程＞ 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方・編成・評価
5 回	＜保育所の保育課程＞ 保育課程の基本
6 回	＜保育所保育の特性を踏まえて＞ 3歳未満児の発達と保育内容
7 回	＜長期の指導計画＞ 園生活と長期の指導計画
8 回	＜短期の指導計画＞ 短期指導計画の意義・作成・活用
9 回	＜保育の計画と評価＞ 保育の実践と観点表
10 回	＜幼・保・小の連携カリキュラム＞ 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11 回	＜開かれた園生活のカリキュラム＞ 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12 回	＜危機管理保育のカリキュラム＞ 危機管理保育カリキュラムの意義と必要性
13 回	＜時代の変化と新たな保育内容 1＞ 多文化保育のカリキュラム
14 回	＜時代の変化と新たな保育内容 2＞ 総合施設におけるカリキュラム
15 回	＜時代の変化と新たな保育内容 3＞ 信頼される園づくりと学校評議員制度
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	宿南久美子
授業概要	<p>保育内容総論は、領域別の授業で学んだ内容を、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解します。</p> <p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実践事例をもとに解説し、受講生が自分の意見を発表したり課題レポートを作成したりする場、またグループ討議の場を大切にしたいと考えています。</p>			
授業科目の目的	<p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解することができるようにします。 2. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容子ども理解とのかかわりについて学ぶことができるようにします。 3. 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解することができるようにします。 4. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解することができるようにします。 5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶことができるようにします。 			
テキスト	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 適宜関連資料を配布</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>授業態度30%、課題・レポート等提出物10%、定期試験60%により総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>教育課程論、教育方法論や各領域で学んできたことと、実習で経験したことを関連づけながら保育の内容について考えてみましょう。実践事例からのグループ協議なども行います。皆さんの積極的な参加を望みます。</p>			
その他事項	<p>常に、「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を利用します。毎回忘れずに持参してください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション・保育の基本と保育内容 1> 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
2 回	<保育の基本と保育内容 2> 保育の全体構造と保育内容
3 回	<保育内容の歴史的変遷> 幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷にみる特徴と課題
4 回	<保育内容と子ども理解 1> 子どもの発達の特徴と保育内容
5 回	<保育内容と子ども理解 2> 個と集団の発達と保育内容
6 回	<保育内容と子ども理解 3> 保育における観察と記録
7 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 1> 養護と教育が一体的に展開する保育
8 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 2> 環境を通して行う保育
9 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 3> 遊びによる総合的な保育
10 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 4> 生活や発達の連続性に考慮した保育
11 回	<保育の基本を踏まえた保育内容の展開 5> 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
12 回	<保育の多様な展開 1> 乳児保育
13 回	<保育の多様な展開 2> 長時間保育・多文化共生の保育
14 回	<保育の多様な展開 3> 特別な支援を必要とする子どもの保育
15 回	<「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解> 比較と理解
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと健康	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	栗岡あけみ
授業概要	<p>保育は、実践によって成り立つものです。 それを実りあるものにするためには、理論的学習が必要です。 乳幼児期の健康に対する幅広い知識と、個々の発育発達の状態に対する配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的な方法について、子どもを取り巻く現代の生活環境にも目を向けながら、子どもへの積極的な健康指導を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎をつくる重要な時期です。 この授業は、子どもの健康を守り育てるために、子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、一人一人の子どもの健康状態を評価する能力を養うことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようにします。 2. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための指導および援助ができるようにします。 3. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができるようにします。 4. 健康に関する内容について、指導案を作成することができるようにします。 5. 健全な発育発達を阻害している問題を認識・考察し、健康維持の生活についてアプローチしようとする力を身につけることができるようにします。 6. 安全教育を理解し、管理および指導の方法が分かるようにします。 			
テキスト	<p>子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」／編著 高内正子／保育出版社</p>			
参考書	<p>必要に応じて、授業の中で紹介します。 保育所保育指針解説書／厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府／厚生労働省／文部科学省 幼稚園教育要領解説／文部科学省</p>			
成績評価基準	<p>学習成果の1～6までは、筆記試験、レポート、グループディスカッションなどにより、知識態度の修得を確認します。 受講姿勢・関心意欲 20%、レポート&グループディスカッション 30%、定期試験 50%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、現代の子どもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。 また、心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきを図りながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。</p>			
その他	<p>必要に応じて参考になるプリントを配付しますので、ファイルしておいてください。 また、テキスト等を活用して、予習復習を行った上で授業に臨んでください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<領域「健康」の理解> 領域「健康」のねらいと内容
2 回	<基本的生活習慣の獲得1> 伝統的民俗行事との関連
3 回	<基本的生活習慣の獲得2> 保育行事との関連
4 回	<子どものこころの健康1> 子どものこころの発達とストレスのサイン
5 回	<子どものこころの健康2> 子どもの健康と虐待
6 回	<子どものこころの健康3> 禁煙教育と性教育
7 回	<子どものこころの健康4> いのちを大切にすることの重要性
8 回	<子どもの健康と食生活> 食育と健康との関わり
9 回	<子どもの遊びと健康1> 子どもの遊びとは何か・土踏まずとの関係
10 回	<子どもの遊びと健康2> 発達年齢に応じた体を動かして遊ぶ遊び調べ
11 回	<子どもの遊びと健康3> 様々な運動遊びの指導のあり方（指導案作成）
12 回	<子どもの遊びと健康4> 様々な運動遊びの指導のあり方（模擬保育）
13 回	<子どもの遊びと健康5> 様々な運動遊びの指導のあり方（振り返り）
14 回	<保育環境の安全性1> 子どもへの安全教育の仕方
15 回	<保育環境の安全性2> 安全管理のあり方
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと人間関係	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	原田敬文
授業概要	<p>領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考えます。</p> <p>また、こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々ななかかわりをおとした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していきます。さらに、保育者としてどのようにこどもの人とのなかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのかについて考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につけ、こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解します。</p> <p>こどもたちが、人的物的環境にかかわり、主体的に活動することや、互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とします。</p>			
学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できるようにします。 ・ こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解し、説明できるようにします。 ・ 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できるようにします。 ・ 養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察し、説明できるようにします。 			
テキスト	保育と人間関係／矢野正・澤田真弓／嵯峨野書院			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>こどもたちは、様々な人間関係の中で生きています。例えば、こども同士、こどもと保育者、こどもと保護者、こどもと地域の人々などです。これらの人との出会いは、こどもの心身ともに健全に成長させるのに大変意義のあるものになります。</p> <p>将来保育者として、こども達と向き合うみなさんが、こども達にとって望ましい人間関係を構築するために、現代の教育（保育）課題と合わせ、学んでいきましょう。</p> <p>そのためには、みなさん自身が主体的に学ぼうとする態度も重要です。演習等も多く取り入れるので、積極的に学んでいきましょう。</p> <p>学習は事例をもとに進めていくので、実習での体験などを振り返っておくなどの事前準備をして学習に当たってください。</p>			
その他	授業で配布のプリント等は、各自ファイルすること。			

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 保育内容における「人間関係」の位置づけ
2 回	<領域「人間関係」の考え方> ねらいと内容、保育活動の総合性とは
3 回	<現代社会とこどもの人間関係1> 少子高齢化、核家族化
4 回	<現代社会とこどもの人間関係2> 身近な環境の変化、メディアの変化
5 回	<人間関係の展開1> 規範意識と道徳性の芽生え、ルール（決まりごと）の意味と意義
6 回	<人間関係の展開2> 自立心、協同性の芽生え、自己発揮と自己抑制の芽生え
7 回	<人間関係とこどもの遊び> 遊びの中で育つ乳児の人間関係、遊びの中で育つ幼児の人間関係
8 回	<人間関係とこどもの生活> 家庭とのかかわりとこどもの発達、地域とのかかわりとこどもの発達
9 回	<保育者とこどもの人間関係1> こどもの人間関係を見つめる目、保育構想と指導案
10 回	<保育者とこどもの人間関係2> 人間関係を育てる保育者の役割、対人意識・自己概念の発達
11 回	<保育者の人間関係1> 人との関わりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫、集団におけるこども同士の芽生え・調和を支える保育者の工夫
12 回	<保育者の人間関係2> こども同士を結びつける保育者の遊びの役割と保育計画
13 回	<保育者の人間関係3> 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画、小学校との交流を導く保育計画
14 回	<今日的な人間関係の課題> 多様な文化のこども、気に留めたいこども
15 回	<地域子育て支援にかかわる人間関係> 地域子育て支援センターとしての幼稚園、保育所、認定こども園
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと環境	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	栗岡あけみ
授業概要	<p>子どもは家庭・保育所・幼稚園・認定こども園・地域社会などの「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生活しています。その中で、さまざまな体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われます。</p> <p>それらをふまえ、本科目では、子どもの発達に応じた環境とかかわりを概観し、教育要領、保育指針、教育・保育要領、指定テキスト及びDVDなどを参考にし、保育現場における具体的な子どもの活動事例を取り上げながら学習を進めていきます。グループディスカッションやグループ発表等を行い、他者の考えにふれながら学びを深める授業形態も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>乳幼児期の子どもたちの発達と環境について考えてみることにより、乳幼児の保育を展開していくときにどのような保育環境が必要となるのか、また、そうした保育環境はどのようにすれば構成していけるのかについて学んでいきます。また、乳幼児期の子どもたちが通う保育施設における環境の大切さについても具体的に考えていきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境（人的、物的、自然、社会、文化など）について関心を深め、子どもの発達特性をふまえた保育環境を意図的に構成できるようにします。 2. 環境にかかわりながら遊ぶ子どもたちの育ちを支える保育者の役割について論じることができるようにします。 3. 保育者として、一人の人間として人間観、子ども観などを成熟しようとすることができるようにします。 			
テキスト	幼稚園教育要領解説書 必要に応じて資料を配付（リングファイルを持参すること）			
参考書	環境構成の理論と実践／高山静子／エイデル研究所／2015／2,000円＋税 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携認定こども園教育・保育要領			
成績評価基準	3つの学習成果について、課題発表とレポート提出、定期試験により理解度を評価します。定期試験を50%、課題・製作・発表等30%、授業態度・意欲を20%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>この科目の授業形態は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。</p> <p>保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。子どもの立場に立って指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのように誘導・指導するか、できるかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。</p> <p>事前にテキストを読み予習してください。日常的に、社会事象、天体、身近な自然事象、人のかかわりの様子について興味をもち、よく観察して保育の眼を養う努力をしてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 「こどもと環境」を学ぶことの意義
2 回	<保育の基本と保育内容1> 保育の基本とは
3 回	<保育の基本とは保育内容2> 領域「環境」の位置づけ
4 回	<領域「環境」における指導の観点> 指導の観点と留意点
5 回	<好奇心・探求心のはぐくみ> 幼児の特性から学ぶ
6 回	<身近な環境構成1> 自然環境（樹木・草花・雲など）
7 回	<身近な環境構成2> 人的環境（子ども・保育者・保護者・地域の人々）
8 回	<身近な環境構成2> 物的環境（素材を生かした保育）
9 回	<身近な環境構成3> 社会・文化環境（公共施設、文化遺産など）
10 回	<子どもと環境のかかわり1> 数量・図形との出会い
11 回	<子どもと環境のかかわり2> 物の性質との出会い
12 回	<子どもと環境のかかわり3> 文字と標識との出会い
13 回	<保育環境のデザイン> 室内環境と屋外環境
14 回	<環境における保育者の役割> 保育者の3つの役割
15 回	<領域「環境」のまとめ> 保育環境の現状と課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと言葉	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	小西律
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、相互の意見交換や文字への興味、言葉の持つ楽しさや、言語教材についても実践的な取り組みを行い、言葉を獲得するとはどういうことなのかを探求します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とします。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く態度・姿勢、小学校の生活に必要な自己表現ができる言葉獲得等について理解することを目的とします。 3. こどもの豊かな言葉を育む母親、保育者の言葉のあり方について認識し、理解することを目的とします。 4. 言葉遊び文字体験等の活動を通して言葉に対する感覚・言葉の美しさ・楽しさを認識し、理解することを目的とします。 5. 絵本等を通してイメージーションを豊かにし、日常語以外の言葉の獲得についても豊かな言葉を育む方策の一つとして理解することを目的とします。 6. 言葉に問題があったり、遅れがあったりする、また外国籍の幼児についても配慮、支援を認識し理解することを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得されるかを言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえ、こどもと年齢別にコミュニケーションをとることができるようにします。 2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようにします。 3. ヘレンケラーの事例から人間の言葉の持つ意味を捉え、認識できるようにします。 4. こどもの心情・思考・行動等を育む保育者の言動のあり方を認識し、理解できるようにします。 5. 乳幼児期の言葉の重要性を、言葉あそび、絵本、文学体験活動等から、広範囲に認識できるようにします。 			
テキスト	保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館			
参考書	保育内容 実践と研修シリーズ「ことばの育ち」／村石昭三／フレーベル館／1,800円 魅力ある保育者たち／高石自子／ひかりのくに／1,200円			
成績評価基準	定期試験 50%、レポート・作品・実践 20%、授業・課題に取り組む姿勢 30%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	人は人に生まれ人としての成長をします。その人との関わりの過程から言葉は獲得されるものです。言い換えれば、言葉を通して人は成長していくといえましょう。言葉はその人の人間性を表現するもの、こども達の言葉の発達を豊かに育むことを目指して授業に臨んでください。年齢が低いとトーンは高く、年齢が上がるにつれてトーンも落ち着き話している内容も聞き取りやすくなります。 実学としての学びのために、こども達が話している言葉の聞き取りを「言葉収集ノート」として予習復習も兼ね毎時の課題とします。詳しくは授業中に説明します。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<言葉の位置付けと他領域との関わり／言葉と生活 1> 幼児教育と言葉とは何か 自己表現としての言葉の確立「言葉収集ノート」について
2 回	<言葉と生活 2> 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと 領域「言葉」について 「言葉」の意義・内容
3 回	<乳幼児期の言葉の発達 1> 0歳～2歳
4 回	<乳幼児期の言葉の発達 2> 3歳・4歳・5歳～就学前
5 回	<『奇跡の人』 1> サリバンの教育と言葉のもつ意味 視聴
6 回	<『奇跡の人』 2> サリバンの教育と言葉のもつ意味、レポート作成 視聴
7 回	<言葉から文字へ 1> 文字への関心、文字による環境、文字体験としてのカルタ、絵カード制作(1)
8 回	<言葉から文字へ 2> 文字体験としてのカルタ、絵カード制作(2)
9 回	<言葉から文字へ 3> 文字体験としてのカルタ、絵カード制作(3)
10 回	<言葉から文字へ 4> 制作したカルタ、絵カードによる実践あそび(園児)
11 回	<言葉を豊かに育む活動 1> 言語教材としての絵本・しりとり、伝言ゲームの必要性和実践
12 回	<言葉を豊かに育む活動 2> 絵本と保育・教育
13 回	<言葉の環境> 母親との関わり・母親の言葉掛け、保育者との関わり・保育者の言葉のあり方
14 回	<言葉をめぐる問題> 言葉のおくれや障碍、標準語と地域語、外国のこどもとの対応
15 回	<幼稚園、保育園と小学校との連携> 聞く態度を養い自己の言葉を使用した表現、「言葉」と小学校、小学校の文字指導に繋ぐには <まとめ>
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもとリズム表現	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	茨木金吾
授業概要	<p>こどもにとって表現とは何か、保育の中でどのような意味を持つのか、表現する力を育てるとはどういうことなのかをドラマにおける表現方法、幼児用楽器などを使用しての音楽表現、ごっこ遊びや劇遊びなどの遊びを通しての身体表現から、その理論と実践方法を学習し、指導援助者としてのあるべき姿を追求していきます。</p> <p>また、こどもの活動を「表現」という一つの領域にとどまるのではなく、他領域での知識や技能と関連させながら考察していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、こどもの遊び(音楽表現遊び・身体表現遊び)を豊かに展開するために必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現的領域、言語表現的領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とします。</p> <p>また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な表現活動に関する知識や技術をも合わせて習得していきます。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「表現」(特にリズム表現(含む身体表現))の位置づけと設定が理解できます。 2. 保育指針改定に伴う、乳幼児保育及び1歳以上3歳未満児に関するねらいと内容が理解できます。 3. 保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術が習得できます。 4. 表現する力を育てるための手法を、身体表現、音楽表現の分野から実践を通して習得できます。 5. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助のあり方を、ごっこ遊び、劇あそびを展開する中で考察し、そのきっかけをつかむことができます。 			
テキスト	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 / ずずき出版 幼稚園教育要領 / 文部科学省 / フレーベル館 幼稚園教育要領解説 / 文部科学省 / フレーベル館 保育所保育指針 / 厚生労働省 / フレーベル館 保育所保育指針解説書 / 厚生労働省 / フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 / 内閣府・文部科学省・厚生労働省 / フレーベル館</p>			
参考書	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 / 圭文社 楽しく遊べる子どもの音楽表現 手あそび・指あそび・歌あそび・絵かきうた / 田中常雄監修 茨木金吾・伏見千悦子・野口雅史著 / (株)大学図書出版 / 2,700+税</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験 …… 50% 2. 実践内容 …… 40% 3. 学習態度、意欲 …… 10% <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に動き、グループ内での協調性を大切にしていき、幼稚園教諭及び、保育士を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。 2. 学びを確実なものにするためにも学び得られたものを復習することはもちろんですが、次への学びを容易にするためにも、必ず予習をするなど次回へ繋がる取り組みをしてください。 3. 7.5コマという短い授業時間数の中で、多くの内容を習得して行かなくてはならないことを自覚し、欠席、遅刻、早退することなく出席してください。 			
その他事項	<p>実践を通しての学びが多くなりますので、常に運動のできる服装で臨んでください。また、ホールを使用する場合は、上履きが必要になりますので準備しておいてください。</p>			

授業内容進行表

1 回	<p><領域「表現」についての基本的な考え方> 幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」（特にリズム表現(含む身体表現)）の位置づけと設定の理解（この回のみ、45分授業）</p>
2 回	<p><領域「表現」についての基本的な考え方> 保育指針改定に伴う、乳幼児保育及び1歳以上3歳未満児に関するねらいと内容の理解 <表現する力を育てるための理論と実践方法1> 表現活動をのびのびと行える環境作りについて、その重要性と実践方法について</p>
3 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法2> 身体的表現（歩く、走る、スキップ、ギャロップの基本リズムパターンの理解とその応用）</p>
4 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法3> 身体的表現（ムーブメント（動くこと）について）(1)</p>
5 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法4> 身体的表現（ムーブメント（動くこと）について）(2)</p>
6 回	<p><表現する力を育てるための理論と実践方法5> 音楽的表現（歌唱と幼児用楽器を用いた表現活動について）</p>
7 回	<p><表現する力を育てるための保育者の役割と援助1> ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現、そのあり方について</p>
8 回	<p><表現する力を育てるための保育者の役割と援助2> ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現 その発表とふりかえり 「こどもとリズム表現」そのまとめ</p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形表現Ⅰ	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の表現領域を踏まえて、乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する講義をします。また、乳幼児の遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」等の活動と援助のあり方について、製作体験と関連づけながら学習を行います。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導者として、子どもの発達と保育中に取り扱う教材に必要な知識をもつことを目的とします。さらに、材料・用具の操作、体験などの実践を通じた保育技術の獲得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本を理解できるようにします。 2. 発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴及び乳幼児の表現活動の大切さを理解できるようにします。 3. 乳幼児の造形の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できるようにします。 			
テキスト	こどもと造形表現Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 こどもと造形Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	上記3つの学習成果について、受講姿勢、レポート・課題（作品等）の提出状況・内容30%、定期試験70%の割合で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	乳幼児がモノに触れ、操作していく表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者としての力を貪欲に身に付けてください。 また、授業時間外の学習として、幼稚園、保育所等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<p><オリエンテーション> 学習の進め方と心構えについて</p> <p><子どもの表現について> 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」</p>
2 回	<p><幼児造形教育の変遷></p> <p><乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について></p>
3 回	<p><4～6歳児の絵画表現の特徴について></p> <p><子どものえがく活動の環境づくりと援助について1> おおむね1歳未満児から3歳児</p>
4 回	<p><子どものえがく活動の環境づくりと援助について2> おおむね4歳児から6歳児</p> <p><小学校との連携について></p>
5 回	<p><振り返り・小テスト></p> <p><教材研究：教材と指導援助について1> 講義と「造形あそびとえがく活動」による実践的な学習1</p>
6 回	<p><教材研究：教材と指導援助について2> 講義と「造形あそびとえがく活動」による実践的な学習2</p>
7 回	<p><教材研究：教材と指導援助について3> 講義と「造形あそびとつくる活動」による実践的な学習</p>
8 回	<p><振り返り・まとめ></p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
こどもと造形表現Ⅱ	2年・前期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	<p>「こどもと造形表現Ⅰ」での学びをもとに、乳幼児の表現活動の発達過程に合わせて指導法を深める学習を行います。乳幼児の遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」等の活動と援助のあり方について、製作体験と関連づけながら学習をします。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導者として、子どもの発達と保育中に取り扱う教材に必要な知識をもつことを目的とします。「こどもと造形表現Ⅰ」で学習したことを踏まえ、新たな教材について、実践を通じた保育技術の獲得を目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本を理解し、深めることができるようになります。 2. 発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴及び乳幼児の表現活動の大切さを理解し、深めることができるようになります。 3. 乳幼児の造形の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が幅広く習得できるようにします。 			
テキスト	<p>こどもと造形Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／東山明 他／豊岡短期大学 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館</p>			
参考書	<p>授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>上記3つの学習成果について、受講姿勢、レポート・課題（作品等）の提出状況・内容40%、定期試験60%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>乳幼児がモノに触れ、操作していく表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要かつ不可欠なことです。皆さんは乳幼児がこれからの時代を生きていくための思考力・判断力・表現力の土台になる力を育むことを理解し、保育者として子どもの姿を現実的にイメージし、実践できる力を貪欲に身に付けてください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、幼稚園、保育所等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を深めていくことも心がけてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<p><オリエンテーション> 学習の進め方と心構えについて <子どものつくる・造形あそびによる表現について> 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」(つくる活動の視点から)</p>
2 回	<p><つくる活動の乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について> <子どものつくる活動の環境づくりと援助について1> おおむね1歳未満児から3歳児</p>
3 回	<p><子どものつくる活動の環境づくりと援助について2> おおむね4歳児から6歳児</p>
4 回	<p><振り返り・小テスト> <教材研究：教材と指導援助について1> 講義とつくる活動による実践的な学習1 (自然物による製作)</p>
5 回	<p><教材研究：教材と指導援助について2> 講義とつくる活動による実践的な学習2 (廃品による製作)</p>
6 回	<p><教材研究：教材と指導援助について3> 講義と園の行事に合わせた実践的な学習1 (紙による製作)</p>
7 回	<p><教材研究：教材と指導援助について4> 講義と園の行事に合わせた実践的な学習2 (紙による製作)</p>
8 回	<p><振り返り・まとめ></p>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
<p>【定期試験】 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと言語表現	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	小西律
授業概要	保育現場で使用される文化財について、絵本及び伝承遊びを教材にして役立つ技術を身に付け、自らが文化を創り、言語による表現ができるようにします。実践を伴った授業から体験を通じた理解、こどもの文化についてより深く考察します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 柔軟な思考のもと、創造と想像の世界が構築でき、保育現場での表現活動に役立てることを目的とします。 屏風絵本の制作、わらべ歌遊び等を通してこどもの言語表現の感覚を養い、磨くことを目的とします。 グループでの双六の制作により、言葉、色彩等の感性を豊かにし、劇遊び等に発展できる力を持ち、文字・数についての指導力も養うことを目的とします。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> こどもの言語表現についての感性を磨き、日常使用される文化財についてその必要性を説明できるようにします。 一つの教材を多面的に捉え、計画、工夫、創作することから、こどもの言語表現活動に役立つ力を付けることができますようにします。 			
テキスト	こどもと文学／小西律／豊岡短期大学 保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館			
参考書	絵本とは何か／松居直／日本エディタースクール出版部 わたしの絵本体験／松居友／大和書房			
成績評価基準	定期試験20%、授業・課題、提出物に取り組み姿勢30%、課題・提出物、レポート20%、実践30%により、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>1年次の「こどもの文化」を踏まえての科目です。1年次の振り返りから一歩進めた内容となっています。小型屏風絵本の制作にも取り組み、完成させ実践も行います。世界の中で私だけの1冊の絵本となります。</p> <p>制作の仕方の説明の後は前期の中でポチポチと計画を立てて取り組んでもらい発表も行います。一定の期間内の取り組みで進行しますので、自分の持てる力を精一杯出しきるという気持ちを持って臨んでください。予習、振り返り、課題等の取り組みがあってこそ作品が完成することを忘れないように。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<言葉教材とこどもの文化 1> こどもの発達と文化のかかわり <屏風絵本 1> 屏風絵本の特性 作成の仕方・留意点
2 回	<言語表現が豊かになる児童文化財の指導 1> わらべ歌遊びや言葉遊び等の必要性和留意点
3 回	<言語表現が豊かになる児童文化財の指導 2> わらべ歌遊びや言葉遊び歌等の実践
4 回	<言語表現が豊かになる児童文化財の指導 3> わらべ歌遊びや言葉遊び歌等の実践と振り返り
5 回	<双六 1> 伝承遊び 双六の歴史、意義、グループ編成
6 回	<双六 2> 制作 (1) 対象年齢、内容の構築
7 回	<双六 3> 制作 (2) 略画、言葉、数
8 回	<双六 4> 制作 (3) 色塗り
9 回	<双六 5> 制作 (4) 色塗り
10 回	<双六 6> 実践 (園児)、意見発表、レポート作成
11 回	<双六 7> 振り返り、意見発表、レポート作成
12 回	<屏風絵本 2> 読み聞かせ (1) 実践
13 回	<屏風絵本 3> 読み聞かせ (2) 実践 まとめ
14 回	<望ましいこどもの文化 1> レポート作成、意見発表 授業の取り組みと調査から考察する
15 回	<望ましいこどもの文化 2> こども達の現状と課題：将来を担うこども達に与えるもの
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽表現	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	國光みどり・田上栄美子 大江美歩子・大谷妃早子 松本裕子
授業概要	<p>領域「表現」は幼児期の終わりまでに獲得すべき「豊かな感性と表現」を育む重要な領域です。領域表現の「目標」を理解するとともに、音・音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解し、器楽における弾き歌いの実践に結び付けながら、こどもの音楽表現を育むための実践力を養います。</p> <p>また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解します。</p>			
授業科目の目的	<p>領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の到達目標を目指して、保育の現場でより具体的・実践的な保育活動を展開できるようにします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」における保育のねらいや内容を理解し、子どもが生活の中で喜びをもって主体的に環境にかかわり、表現を生み出す過程で求められる保育者としての感性を養うことができます。 2. 子どもの発達の過程を理解した感性を育む音楽表現活動を実践する力を養います。 3. 子どもの歌・童謡曲等の弾き歌い、簡易伴奏付けの技能等を習得することができます。 			
テキスト	<p>こどもと音楽表現／西野洋子著／豊岡短期大学 幼児のための音楽教育／教育芸術社／2,000円＋税 保育者のためのピアノの基礎／朝日出版社／1600円＋税</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉／チャイルド本社／540円 保育所保育指針幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント／ミネルヴァ書房／1,620円《2018.5.30発刊予定》 小学校学習指導要領-平成29年3月／文部科学省／217円</p>			
成績評価基準	<p>保育内容を理解し、適切な演奏ができる技能および知識と理解がなされているかを下記に示した割合で総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(実技試験・小テスト含む)60% 2. レポート提出20% 3. 意欲・態度20% 			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの練習の第一歩は、まず楽譜を正しく読み、正しい運指で正確に弾けるようにすることです。最初から全曲を弾こうとせずに、1小節ずつ確実に弾きこなせるように毎日の練習に励みましょう。 ・様々な教材曲に共通する事柄(和声進行、リズムパターン、フレーズ構造)などに注目し、記憶に留めておく習慣をつけましょう。演奏力だけでなく保育現場で役立つ初見奏や伴奏法の向上にもつながります。 ・地道に学びの積み上げを行えば、習得した音楽に関する基本的な知識や技能は、今後、保育で行う豊かな音楽表現活動に必ず生きるものです。 ・子どもは音楽表現活動が大好きです。私たちが皆さんと一緒により、音楽表現活動を楽しみたいと思っています。笑顔で、明るい声で、体いっぱい表現活動しましょう。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解 ガイダンス ・表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 	16 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コードを鍵盤から覚え、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 1 ・課題成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い）
2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解 ・表現活動における伴奏の方法と実践 	17 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コードを鍵盤から覚え、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 2 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 1
3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある環境音である「自然の音」や「身の周りの音」への気付きと表現解 ・サウンドスケープに基づく聴取実践と聴取した音の楽器による表現及び伴奏法 	18 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 1 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 2
4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 ・乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 	19 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コード使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 2 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 3
5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・0、1、2 歳児の声の発達と表現活動の理解と実践 ・乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 	20 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 3 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 4
6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4、5 歳児の声の発達と表現活動の理解と実践 ・幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 	21 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 4 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 5
7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・「わらべうた」や「伝承あそび」などの知識と実践 ・「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法 	22 回	<ul style="list-style-type: none"> ・コードを使って伴奏しながら、自然な発声で童謡や唱歌を弾き歌いする 5 ・成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い）
8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」と他の領域とのかかわりについての理解と応用 ・他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした音楽の理解と弾き歌いの実践 	23 回	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と楽器-奏でる活動の指導のポイント ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 6
9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル指導案による保育の理解と指導計画の確認（グループ討議） ・保育実践での歌や曲の選曲とその伴奏・効果音等の研究 	24 回	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のおもちゃと楽器との出会い ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 7
10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル指導案による保育実践の過程と指導の留意点の検討（グループ討議） ・環境構成の検討と保育者の役割・援助の確認及び伴奏法の実践 	25 回	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせてリズム伴奏しながら歌う 1 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 8
11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル指導案[「わらべうた」「伝承あそび」を楽しもう]における模擬保育の実践 ・模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 	26 回	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせてリズム伴奏をしながら歌う 2 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い 9
12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル指導案[「わらべうた」「伝承あそび」を楽しもう]における模擬保育の実践 ・模擬保育での「わらべうた」「伝承あそび」の弾き歌い・伴奏法の実践 	27 回	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉やリズムのアンサンブルをつくって表現する 1 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い10
13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル指導案[自然物や身近な素材を活かして音あそびをしよう]における模擬保育の実践・模擬保育での弾き歌い、楽器あそびを展開する器楽伴奏法の実践 	28 回	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉やリズムのアンサンブルをつくって表現する 2 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い11
14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ポトフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 ・保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践 	29 回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のこどもの歌の歴史の理解 ・ピアノの演奏技術の習得と弾き歌い12
15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ ・成果発表会（ピアノ演奏・弾き歌い） 	30 回	<ul style="list-style-type: none"> 成果発表会（ピアノ演奏、弾き歌い） 「こどもと音楽表現」の学習のまとめ
		【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育方法論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	原田敬文 大塚貴之 稲田達也
授業概要	教育方法とは何か、その定義と意義などについての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することを通して、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察します。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解し、それらをもとに授業づくりを構想していきます。後半では、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連続について考察します。最後に教育方法の課題と今後の展望について検討していきます。			
授業科目の目的	教育方法の定義、意義などの基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価の関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する手立てとなる教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、幼稚園教諭として必要な資質を養うことを目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の定義、意義、守備範囲などの概念についての基本的知識を理解できるようにします。 2. 教育方法の歴史的変遷について理解できるようにします。 3. 授業についての概要を知り、学習指導の形態と方法について理解できるようにします。 4. 教育技術の革新について理解するとともに情報機器の活用を説明できるようにします。 5. 生徒指導の原理と方法及びその実際について知り、学習指導と生徒指導の関係について理解できるようにします。 6. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解できるようにします。 			
テキスト	保育ライブラリー 幼児教育の方法／民秋言 他著／北大路書房			
参考書	幼児学用語集／小田 豊等監修／北大路書房 保育所保育指針および解説書／フレーベル館 幼稚園教育要領および解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	本授業では、こどもの成長に合わせた、教育方法について考えます。また、保幼小の連携も視野に入れた学びの連続性についても考える機会とします。 そのため、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、事前に熟読して理解しておくようにしておいてください。 授業では、プリントを配布しての学習が多くなりますので、各自ファイルして、整理しておくようにしてください。 また、保育や教育系の雑誌などを読み、常に、自身の情報量を増やすよう、心がけてください。			
その他事項	授業で配布するプリント類は、各自ファイルしておくこと。			

授業内容進行表

1 回	教育方法の定義・意義と守備範囲
2 回	教育方法の歴史的展開 1 (西欧の教育方法)
3 回	教育方法の歴史的展開 2 (近・現代の教育方法)
4 回	教育方法の歴史的展開 3 (日本の教育方法)
5 回	教育技術の革新と情報機器の活用
6 回	教材・教具の活用法
7 回	特色ある授業実践
8 回	教育現場における授業技術
9 回	授業分析と授業評価
10 回	授業づくりを構想する
11 回	幼児の理解と幼児教育（保育）の方法 (生徒指導との関係も踏まえて)
12 回	近代以降の幼児教育（保育）方法
13 回	幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領
14 回	幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容
15 回	教育方法の課題と展望
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育相談	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	原田敬文
授業概要	相談支援の究極的な目的は、こどもの人間形成、人格形成にある。幼児、児童、生徒を対象にした現場における相談支援に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応等について学びます。また、カウンセリングの基本的態度や技法について学び、様々な心理アセスメントの内容・活用について理解を深めます。			
授業科目の目的	幼児教育（保育）現場における相談支援とは、一人ひとりのこどもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育者などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行うことです。このような働きかけを通して、こどもの持つ悩みや問題の解決を援助し、さらにはそのこどもの望ましい生き方・在り方や人格の成長を目指していくことです。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について学んでいきます。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の理論と役割を説明できるようにします。 2. 獲得した基礎的知識を用いて、教育（保育）場面において円滑に相談活動が展開できるようにします。 3. こどもを理解する方法として、発達検査や知能検査について理解し、説明できるようにします。 4. 教育現場の諸問題に関して、それぞれの専門性を活かし、連携する仕組みを理解できるようにします。 			
テキスト	保育カウンセリングへの招待／富田久枝・杉原一昭／北大路書房			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	授業態度10%、レポート30%、定期試験60%により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	教育（保育）現場において、教育相談のニーズは高まってきています。こども自身への援助、保護者支援、教員間での情報共有など、身につけておかなければならない知識や技術がたくさんあります。カウンセリングに関する技能や態度も必要ですが、こどもを理解することが一番大切であると考えます。これまでの実習記録を見て、支援計画を作って授業に臨んでください。			
その他事項	授業に配布したプリントは、各自でファイルをすること。			

授業内容進行表

1 回	こどもの実態に応じた発達や学びの把握（こどもの理解の意義、養護保育の一体的展開）
2 回	相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴）
3 回	こどもを理解する視点① こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験
4 回	こどもを理解する視点② 葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行
5 回	こどもを理解する方法① 知能検査・発達検査・行動観察法、他
6 回	こどもを理解する方法② 観察・記録・省察・評価
7 回	こどもを理解する方法③ 職員間の情報共有、保護者との情報共有
8 回	こどもの自己理解を進める技法　こどもの自己表現と自己理解の発達
9 回	幼児・こども理解とカウンセリング・マインド 実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める
10 回	幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援
11 回	小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援
12 回	相談支援の実際① 発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち
13 回	相談支援の実際② 不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント
14 回	相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携）
15 回	相談支援の課題と対応 教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成
【定期試験】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
乳幼児保育	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	國光みどり
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など基本的な知識を身につけます。現場の様子も紹介しながら、0～2歳の生活と遊び、安全管理など、具体的な取り組みと課題についての授業を行います。この時期の乳幼児は、人生で最も成長・発達が著しく、「人は人間によって育てられて人間になる」を実感させてくれます。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者としての役割を理解し、適切な保育支援の習得を目指す学びを進めます。また、グループでの話し合いや保育技術の実践なども行いながら、乳幼児への理解をさらに深めます。			
授業科目の目的	我が国の乳幼児保育の変遷と、現代社会における家庭の問題やそれに伴う子育ての現状を認識することを目的とします。また、乳幼児の心身の特徴や発達の過程など、乳幼児保育の基本を理解するとともに、保育者として乳幼児一人ひとりに応じた乳幼児保育を実践する力を体得できるようにもします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児保育の理念と歴史の変遷及び役割の学びを通して現代の保育と関連づけて考えることができるようにします。 2. 保育所・こども園・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解できるようにします。 3. 乳幼児の発育、発達の過程を十分に理解し、日常生活や遊びに対する援助について具体的に学ぶことにより、保育実習等においてより実践的な学びに繋がるようにします。 4. 現代社会における家庭の状況を知り、子育て支援の現状と必要性を認識できるようにし、そこでの保育者の役割について自らの意見をもつことができるようにします。 			
テキスト	乳幼児保育／糸 幸男／豊岡短期大学 保育所保育指針・保育所保育指針解説書／フレーベル館			
参考書	必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。			
成績評価基準	定期試験60%、授業態度10%、提出物・発表・グループワークへの参加30%で総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	保育者になるための学びであることを十分に理解し、様々な機会をとらえて乳幼児と接する体験を大切にしながら、テキストの理論と結びつけて子どもの実際の姿を認識していきましょう。 わらべうたや、伝承あそび、手遊び、手作りおもちゃ等の発表や、沐浴・調乳などの実践を実施し、実習や現場で活かせる内容を多く取り入れた授業を進めていきます。意欲をもって授業に臨んでください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 「乳幼児保育」とは何か（保育所保育指針を通して）
2 回	<乳幼児保育の理念と役割> 乳幼児保育の意義、制度化、歴史的背景
3 回	<乳幼児保育の現状と課題> 保育所・こども園・乳児院・家庭的保育等における乳児保育
4 回	<乳幼児保育の基礎知識1> 胎児の世界、新生児・乳児について
5 回	<乳幼児保育の基礎知識2> 乳幼児の心の発達・愛着理論と乳児保育の特性
6 回	<乳幼児期の発達と保育内容1> おおむね6か月未満児の発達と保育内容
7 回	<乳幼児の発達と保育内容2> おおむね6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容
8 回	<乳幼児の発達と保育内容3> おおむね1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
9 回	<乳幼児の発達と保育内容4> おおむね2歳児の発達と保育内容
10 回	<実践1> 0歳児保育の観察—おもちゃ環境を中心として—（こうのとりこども園）
11 回	<実践2> 手作りおもちゃの制作
12 回	<実践3> 手作りおもちゃの発表と評価
13 回	<実践4> 沐浴・調乳・着替えの実践
14 回	<乳幼児の生活と保育> 食を整える・疾病・事故及び危機管理
15 回	<乳幼児保育における連携> 保護者とのパートナーシップ・保健・医療機関・地域子育て支援との連携　まとめ
【定期試験】 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護内容	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	室谷雅美
授業概要	子どもを育むことは一義的には親の責任であるが、それが果しにくい状況にある家庭が増えていることが現代社会の課題となっており、多くの子どもに社会的養護が必要になってきている。施設で暮らす子どもたちにどのような援助がおこなわれているかを学び、福祉に関わる実践力を身につけます。			
授業科目の目的	社会的養護の全体像を把握し、養護を要する子どもの自立支援のための知識、技能の習得を目的とします。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設で暮らす子どもについて理解ができるようにします。 2. 施設で暮らす子どもたちにどのような援助が必要かを理解し、援助技術を身につけることができるようにします。 3. 子どもの理解を支える業務上の技術を身につけることができるようにします。 			
テキスト	児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護内容 第3版/吉田 眞理 編著/萌文書林			
参考書	保育者養成シリーズ 社会的養護/林邦雄・谷田貝公昭 監修/一藝社			
成績評価基準	試験(60%)、レポート(25%)、講義への参加の態度等(15%)により総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	社会的養護内容は、こどもの最善の利益を追求し、社会がどのような支援ができるかについて学ぶ授業です。本来、こども達は、家庭で養育されることが望ましいですが、様々な要因により、施設の支援を必要とするこどもも多くいます。そのような、こどもの最善の利益とは、どのようなものかについて、具体例を交えて紹介していきます。実習での体験につながるよう、しっかり理解してください。施設で生活するこども達をどのように支援していくべきなのか、みなさん自身もしっかり考えるようにしてください。			
その他				

授業内容進行表

1 回	<子どもの権利擁護> 子どもの最善の利益、生存と発達保障、権利擁護の仕組み
2 回	<倫理および責務> 支援者としての資質と倫理、バーンアウトと共依存の予防
3 回	<施設養護の特性と実際1> 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
4 回	<施設養護の特性と実際2> 児童養護施設の暮らし、乳児院と母子生活支援施設の暮らし、医療型障害児入所施設の暮らし、治療的支援と児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の暮らし
5 回	<支援の計画・記録・評価> 個別支援計画・日常支援に関する事例分析
6 回	<施設養護の特性と実際3> 福祉型障害児入所施設の暮らし、里親制度の特徴と実際
7 回	<今後の課題と展望> 施設の小規模化と地域連携、地域住民と施設
8 回	<ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用> ソーシャルワークの活用、基本的日常生活支援
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 (有) ・ 無	

教 科 名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
教 育 実 習	1年・後期 2年・前期	実習	160時間 (4単位)	宿 南 久 美 子
授 業 概 要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら幼児理解を深め、実践力を養い、幼稚園教諭の役割を理解します。</p> <p>こうのとりに認定こども園で、1年次 2～3月に4日間の実習を経験し、それを基に2年次 4月～7月にA・Bクラスに分かれて7日間の実習をします。さらに、9月に学外幼稚園（認定こども園）で2週間の実習をします。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>実習は、幼児や保育に関して習得した知識や理論を保育の実際の場で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むとともに、教員としての能力・適性についての自覚を得ることが目的となります。</p>			
学 習 成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深めることができますようにします。 2. 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解することができますようにします。 3. 幼稚園教諭としての自己課題を明確化することができますようにします。 			
テ キ ス ト	幼稚園教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学			
参 考 書	<p>幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館</p> <p>保育所保育指針解説書／文部科学省／フレーベル館</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成 績 評 価 基 準	各実習園からの評価90%、実習日誌等提出物の状況10%により総合的に評価します。			
メ ッ ク の セ ー ジ と 心 構 え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場では、学生であっても保育者としての自覚をもち、わきまえのある態度で臨んでください。また、保育者としての身だしなみを考え、常に自己責任を意識してください。 ・ 幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。先生が楽しければ幼児も楽しいのです。何よりも保育の楽しさを見つけましょう。 			
の 事 項 他				

授業内容進行表

1 実習期間

実習期間は、以下の予定です。ただし、実習先の状況により変更する場合があります。

○平成29年度入学生

[このとおり認定こども園での実習]

平成30年2月5日(月)～3月15日(木)のうち4日間

平成30年4月6日(金)～7月13日(金)のうち7日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習をする)

[学外幼稚園(認定こども園)での実習]

平成30年9月3日(月)～9月15日(土)2週間

○平成30年度入学生

[このとおり認定こども園での実習]

平成31年2月4日(月)～3月14日(木)のうち4日間

平成31年4月5日(金)～7月12日(金)のうち7日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習をする)

[学外幼稚園(認定こども園)での実習]

平成31年9月2日(月)～9月14日(土)2週間

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育実習事前・事後指導	1～2年・通年	実習	45時間 (1単位)	宿南久美子
授業概要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。1年次2月～3月・2年次前期に行われるこのとり認定こども園での実習、さらに9月の学外幼稚園（認定こども園）での実習に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育についての知識・技能・態度等を総合的に学びます。			
授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基礎理論を学ぶことができますようにします。 2. 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができますようにします。 3. 保育者の専門性と職業倫理について学ぶことができますようにします。 4. 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深め記録することができますようにします。 5. 幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学び、指導案を作成することができますようにします。 6. 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができますようにします。 			
テキスト	幼稚園教育実習事前・事後指導／豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	授業態度・意欲40％、観察記録・指導案等の提出物60％により総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で保育の楽しさを体験するために、事前指導で大切なことをしっかり学びましょう。 ・このとり認定こども園での実習記録のコピーを、毎回必ず提出してください。実習を積み重ね、幼児理解・保育者の役割等を深めていきましょう。 			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 幼稚園教育の特質・実習の意義と目的	16 回	<指導案の作成 3> 4歳児の指導案立案
2 回	<保育者としての倫理> 実習生としての心構え・守秘義務	17 回	<指導案の作成 4> 5歳児の指導案立案
3 回	<実習の内容と方法> 観察・参加・責任実習	18 回	<責任実習の振り返り 1> 自己評価と課題
4 回	<幼児理解と保育> 幼稚園・認定こども園の役割	19 回	<責任実習の振り返り 2> 自己評価と課題
5 回	<教育課程・指導計画> 長期指導計画・短期指導計画	20 回	<責任実習の振り返り 3> 自己評価と課題
6 回	<保育観察 1> 環境構成 ・幼児理解	21 回	<学外実習 直前指導> 実習生としての心構え・準備物 身だしなみ等の確認
7 回	<実習日誌の記録方法 1> 環境構成 ・幼児理解	22 回	<学外実習の振り返り 1> 実習体験発表
8 回	<保育観察 2> 環境構成 ・幼児理解 教師の援助の在り方	23 回	<学外実習の振り返り 2> 自己評価と課題・実習体験集作成
9 回	<実習日誌の記録方法 2> 環境構成 ・幼児理解 教師の援助の在り方	24 回	
10 回	<実践的演習 1> 幼児に即した歌・手遊び	25 回	
11 回	<実践的演習 2> 絵本・紙芝居等の導入からの方法	26 回	
12 回	<オリエンテーション> こうのとりの認定こども園での実習に向けての 心構え	27 回	
13 回	<1年次の実習の振り返り> 報告会と自己評価	28 回	
14 回	<指導案の作成 1> 指導案とは何か	29 回	
15 回	<指導案の作成 2> 3歳児の指導案立案	30 回	
		【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅰ	1年・通年	実習	160時間 (4単位)	栗岡 あけみ 岡本 妙子
授業概要	保育実習Ⅰは、保育所実習と施設実習からなります。実際に保育所、福祉施設において乳幼児（利用者）とかかわり、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合を図る科目です。			
授業科目の目的	保育現場の実際に接し、子ども（利用者）の観察やかかわりを通して、子ども（利用者）への理解を深めます。そして、実習施設の役割や機能、保育士の役割や職務内容を具体的に理解することが目的です。			
学習成果	<p>【保育実習Ⅰ（保育所）】 （2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児理解を確かなものにすることができるようになります。 2. 保育所の機能と保育士の職務内容や職業倫理、チームワークについて理解することができるようになります。 3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を身につけることができるようになります。 <p>【保育実習Ⅰ（保育所以外の児童福祉施設）】 （2単位）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 居住型児童福祉施設の生活に参加し、施設及び利用者とその家族について理解を深めることができるようになります。 2. 居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について理解し身につけることができるようになります。 3. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術を習得することができるようになります。 			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／フレーベル館			
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館			
成績評価基準	実習簿の内容 20%、各実習園による評価（実習態度、保育所理解、施設理解、乳幼児・児童の理解等）80%で総合評価します。			
受講の心構えとセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 ・記録はとても大切です。自分の考えや感想などを文章で適切に表現できるようにしましょう。 ・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。 			
その他の事項	<p>利用する子どもや利用者の最善の利益を優先した実習実施ができるようにしっかりと準備して臨んでください。実習実施準備が整っていないと判断した場合は、実習の中止や延期、取り消す場合もあります。心して取り組んでください。</p> <p>成績評価は下記の2点が前提です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌を期日までに実習担当教員に提出していること 2. 実習後、実習園（施設）に礼状を送付したこと 			

授業内容進行表

1 実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習Ⅰ（保育所実習）】 12日間（80時間）

前期

平成30年8月20日（月）～ 9月15日（土）のうち6日間観察実習

後期（下記の1～4のいずれか6日間）

- 1 平成30年12月21日（金）～ 12月28日（金）の6日間参加実習
- 2 平成31年1月4日（金）～ 1月10日（木）の6日間参加実習
- 3 平成31年2月12日（火）～ 2月18日（月）の6日間参加実習
- 4 平成31年2月19日（火）～ 2月25日（月）の6日間参加実習

【保育実習Ⅰ居住型児童福祉施設等における実習】 おおむね10日間（80時間）

平成31年2月中旬～ 3月下旬 観察実習・参加実習

＜履修上の注意事項＞

保育実習指導Ⅰの履修が必要です。実習の詳細については、保育実習指導Ⅰで提示します。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅰ	1年・通年 2年・前期	演習	60時間 (2単位)	栗岡 あけみ 岡本 妙子
授業概要	<p>保育実習指導Ⅰでは、1年次に実施される保育実習Ⅰ（保育所・施設）の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設（保育所2週間（80時間）、乳児院・養護施設・障害者施設など（80時間））の実習において要求される事前手続きから、基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての配慮などを学びます。</p>			
授業科目の目的	<p>児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深めます。また、子どもへの理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。</p> <p>その上で、実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目的、内容を認識し、保育所・施設実習に必要な専門知識、援助技術を理解し、実習に生かすことができるようになります。 2. 保育実習への基本姿勢、実習に必要な書類や手続き等について理解することができるようにします。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解できるようにします。 4. 実習計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に文章で記すことができるようになります。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を自分の言葉で説明したり文章に記したりすることができるようにします。 			
テキスト	<p>保育実習指導／豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレール館</p>			
参考書	<p>授業の中でプリント、資料を適宜配付します。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度・学習への関心30%、提出物（身上書、ワクチン接種済み書など）、課題（指導案、製作物など）の取り組み40%、発表態度や内容など30%を総合して評価します。</p> <p>ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じたりすることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めることとはどういうことかを一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育観を養ってください。そのためには、テキストや保育所保育指針解説書を読み、予習することが大切です。心構えがあれば、楽しい授業に自ら作り上げられます。是非、学びを深めてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	＜オリエンテーション・実習の意義＞ 実習の目的と概要	16 回	＜指導案を立てるときの基本2＞（保育所） 指導案を立てるときのポイント
2 回	＜保育所保育の理解＞ 保育所保育の目的と特徴	17 回	＜施設実習に向けて、実習の意義と目的＞ 施設実習の性格と内容・意義
3 回	＜保育所生活の理解＞ 保育所の1日の流れと保育士の仕事内容	18 回	＜指導案を立てるときの基本3＞（保育所） 保育計画に基づく指導案の作成
4 回	＜実習内容と心構えの理解＞（保育所） 実習の形態と方法 守秘義務と子どもの人権尊重	19 回	＜施設実習、施設の実際＞ 施設の機能と役割
5 回	＜保育所実習の課題の明確化＞ 自己課題の明確化と諸手続きについて	20 回	＜保育所実習課題の明確化＞ 後期実習課題の設定
6 回	＜実習簿の書き方1＞（保育所） 実習簿の意義・記入上の諸注意	21 回	＜後期保育所実習直前指導＞ まとめ 準備事項の確認
7 回	＜実習簿の書き方2＞（保育所） 記録の取り方・記入方法	22 回	＜施設実習、実習の心構え＞ 実習前の自覚、実習中・実習後の心構え
8 回	＜保育所見学＞ 環境構成・子どもの姿	23 回	＜施設実習、実習簿の書き方＞ 記録の取り方と実習簿への記入の仕方
9 回	＜保育所見学のまとめ＞	24 回	＜施設実習直前指導＞ まとめ 準備事項の確認（施設）
10 回	＜前期保育所実習直前指導＞ 準備事項の確認	25 回	＜実習体験の振り返り1＞（施設） 実習事後課題の明確化
11 回	＜前期保育所実習を終えて＞ 報告会 自己評価	26 回	＜実習体験の振り返り1＞（保育所） 反省と実習事後課題 体験発表
12 回	＜後期保育所実習について＞ 実習日誌の書き方	27 回	＜実習体験の振り返り2＞（施設） 利用者と施設の概要の理解 体験発表
13 回	＜オリエンテーション・施設実習の心構え＞ 観察実習をとおして子ども理解	28 回	＜実習体験の振り返り2＞（保育所） 子ども理解と保育者の援助
14 回	＜指導案を立てるときの基本1＞（保育所） 実習における指導案	29 回	＜全体総括＞（施設） 保育実習課題の明確化
15 回	＜施設実習の課題の明確化＞	30 回	＜全体総括＞（保育所） 保育実習課題の明確化
		【定期試験】 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>社会の状況が変化し「子育て・子育て」の課題が複雑化する中、支援の拠点として保育所はこれまで以上に重要な存在となっています。そこで活躍する保育士の役割も多岐にわたり、より高い専門性が求められています。保育士をめざす者は、各教科で学んだ内容を結びつけ、保育の実践現場で活用したり応用したりできるような学びが求められます。そこで、「保育実習Ⅱ」では、各教科で習得した知識や技能の内容と「保育実習Ⅰ」における保育現場での学びをもとに実習を進めていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰを基礎とした指導実習です。保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 積極的に保育実践に参加し、保育に必要な知識や技術を習得することができるようにします。 既習学習の内容を活かしながら保育の計画を立て、自ら実践することができるようにします。 指導計画の作成、実践、観察、評価を行い、その重要性を説明することができるようにします。 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について説明することができるようにします。 保育士の職務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて説明することができるようにします。 保育士としての自己課題を自分の言葉で説明することができるようにします。 			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学			
参考書	<p>保育所保育指針／厚生労働省／フレーベル館 保育所保育指針解説書／厚生労働省／フレーベル館 保育用語辞典／ミネルヴァ書房 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館</p>			
成績評価基準	<p>実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）80%、保育実習簿の内容（字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・保育の考察力・内省力など）20%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術をもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。 記録はとても大切です。自分の思いや考えなど文章で適切に表現できるようにしましょう。 体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任をもって行動しましょう。 			
その他事項	<p>本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅰ（施設）を履修していることが必要です。</p>			

授業内容進行表

実習期間

以下はおおよその日程です。実習先の状況により前後する場合があります。

【保育実習Ⅱ（保育所実習）】 12日間（80時間）

平成30年8月17日（金）～ 8月30日（木） ・ 観察実習・参加実習・指導実習

実習計画

- ・〈保育全般への参加と保育技術の習得〉
- ・〈子どもの個人差理解と対応方法の習得〉
発達の違いや生活環境にともなう子どものニーズ理解とその対応
- ・〈指導計画の立案と実践〉
- ・〈子どもの家族とのコミュニケーション方法の習得〉
- ・〈地域社会に対する理解と連携方法〉
- ・〈子どもの最善の利益への配慮〉
- ・〈保育士としての職業倫理理解〉
- ・〈保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題の明確化〉

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>保育実習指導Ⅱは、保育所実習の準備と事後学習のためのものです。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体を通して、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく授業です。</p>			
授業科目の目的	<p>保育実習Ⅱの学びを深めることを目的にした科目です。保育実習Ⅰにおける学びや反省を踏まえ自己の課題を明確にして主体的に学びます。観察・参加・指導実習のなかで子どもや保育の理解を深められるよう、子ども理解の方法、指導計画作成の実際について学びます。</p> <p>また、子ども・保護者・同僚とのコミュニケーション能力を身につけ実践力を養い、家庭や地域を理解することも学びます。実習後は、実習を丁寧に振り返り、自己評価、グループ演習などを通して自己課題を明確化することが目的です。</p>			
学習成果	<p>【事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅰとの違いと保育実習Ⅱの内容を理解し、自己課題をもち積極的に実習に臨むことができるようにします。 ・子どもの最善の利益を理解したうえで、個々の発達を踏まえた指導計画を立てることができようにします。 ・観察、記録、自己評価などの方法について具体的に理解し、実習簿に記述できようにします。 <p>【事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先での学習を客観的に振り返ることができるようにします。 ・自身の今後に繋がる成果と課題を明らかにし、文章化することができようにします。 			
テキスト	<p>保育所保育指針解説書／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書／フレーベル館 一年次に購入したテキストを継続して使用します。</p>			
参考書	<p>必要に応じて随時紹介します。 授業の中でプリント、資料を配付します。(リングファイルを準備しておくこと)</p>			
成績評価基準	<p>受講態度30%、提出物とレポート40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。 ただし、実習意欲が感じられないと判断される者は、実習先に迷惑がかかるため、実習を取り止めることがあります。授業には緊張感をもって臨んでください。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。 「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。</p> <p>先輩保育士から学ぶ謙虚な姿勢で臨み、積極性と意欲をもって多くを吸収してもらいたいです。 また、子どもの良いモデルとなれるよう言葉遣い、態度、所作に日頃から注意しましょう。</p> <p>予習は、次回の授業の内容を読み、持ち物や提出物を整えることです。復習は、授業で出された課題を完成させ、提出できるようにすることです。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<保育実習における総合的な学び> 保育実習Ⅱの心構え（子どもの最善の利益） 諸手続きについて
2 回	<子どもの保育と保護者支援> 保護者支援の基本とコミュニケーション 職業倫理
3 回	<保育の実践力の育成1> 実習日誌の記入方法 総合（全日）実習（遊びと教材研究）
4 回	<保育の実践力の育成2> 事前訪問について（実習先の理解） 指導計画の立案・作成について
5 回	<保育実践力の育成3> 子どもの状態に応じた適切なかかわり 表現技術を生かした保育実践
6 回	<実習直前指導> 実習課題の明確化と礼状の書き方
7 回	<事後指導における実習の総括と評価1> 実習の総括と自己評価
8 回	<事後指導における実習の総括と評価2> 自己課題の明確化
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	西村重喜
授業概要	保育所以外の児童福祉施設実習であり、8月中旬～下旬に10日間(80時間以上)の実習を行います。1年次からのすべての学びと実習の経験を生かし、さらに専門性の高い実習を行います。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深めます。 2. 子ども・施設職員との関わりを通して、保育士の業務内容や職業倫理について理解します。 3. 家庭と地域の生活実態にふれ、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解を深めます。 4. 実践を通して、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得します。 5. 実習を通して、自らの福祉観・援助観を構築し、保育士としての自己の課題を明確化します。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して理解できるようにします。 2. 施設における支援の実際について理解できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用児の生活や思いを把握し、その背景もふまえた援助を実践できるようにします。 ・多様な専門職との連携について理解を深め実践できるようにします。 ・地域との連携や家庭への支援の実態について認識を具体化できるようにします。 3. 保育士の多様な業務と職業倫理について実践を通して説明できるようにします。 4. 保育士としての自己課題を認識できるようにします。 			
テキスト	保育実習指導／豊岡短期大学			
参考書	保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館 四訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦他編／みらい 実習ステップブック／山本美貴子他編／みらい			
成績評価基準	実習施設評価(実習態度・実習内容) 80%、実習日誌の内容(文字の丁寧さ・ねらいと内容の理解・考察力など) 20%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>福祉の現場で実習の機会をいただくことに感謝し、誠実かつ意欲的に取り組みましょう。利用者の方に寄り添い、より良い支援ができるよう努力を重ねることが必要です。一生懸命な姿勢がなにより大切です。</p> <p>体調管理には十分に気をつけ遅刻や欠席は絶対にしないこと、身だしなみを整えること、諸注意を厳守し各自が責任をもって行動することが望まれます。自立した人間としての強い自覚の上、職業実習として捉えることが望まれます。</p>			
その他事項	本実習科目を履修するにあたっては、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)を履修していることが必要です。			

授業内容進行表

「保育実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬の10日間で80時間以上の実習を行います。

実習の概要は次に示しますが、具体的には、各施設の指示によって実施していきます。

1. 実習施設の役割と機能について理解する。
2. 実習施設における支援内容の概要を把握する。
3. 利用者を理解し、個々に応じた支援を実践する。
4. 個別の支援計画に沿った支援を実践する。
5. 利用者の家族への支援について学ぶ。
6. 他職種との連携について学ぶ。
7. 地域の子育てへの支援など、地域社会との連携について学ぶ。
8. 多様な業務及び職業倫理について学ぶ。
9. 実習日誌の記入によって考察を深める。
10. 実習を通して自己の課題について考察し、今後の目標を明確化する。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	西村重喜
授業概要	<p>保育実習Ⅲの事前学習と事後学習を行います。事前学習では、保育実習Ⅰ（施設）で学んだことを基礎に、本実習の意義・目的・方法を明確にし、より専門的な実習となるよう学びを深めます。さらに実習計画の立案や事前手続きを行います。また、実習に必要な社会人・職業人としてのマナーを身につけます。事後学習では、実習の振り返りとまとめを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題や認識を明確にします。</p>			
授業科目の目的	<p>(実習前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の理解、利用者、職員、専門知識・技術について理解します。 ・利用者の人権の尊重や実習生としての心構えなど実習に際しての留意事項を理解します。 ・実習簿の記録方法、実習計画の作成方法、事前準備や手続きについて理解します。 ・社会人、専門的職業人の視点に立った実践力と自覚を高めます。 <p>(実習後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設保育士の役割について、発表や文章化を通して、再度考察を行い認識を深めます。 			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの意義や目的を言葉で説明できるようにします。 2. 実習や既習の教科内容を関連付けて、保育実践力を養うことができるようにします。 3. 観察、記録、評価に基づいた保育の方法について意識し実践できるようにします。 4. 児童福祉施設の機能、そこで暮らす児童の状況、利用者の自立を支える保育士の役割について、具体的に述べるができるようにします。 5. 実習での体験を普遍化し、現在の保育現場の課題、自己の保育者としての課題を明確化できるようにします。 			
テキスト	<p>保育実習指導／豊岡短期大学 授業内において適宜資料を配付します。</p>			
参考書	<p>保育所保育指針解説書／厚生労働省編／フレーベル館 四訂 福祉施設実習ハンドブック／岡本幹彦 他／みらい 実習ステップブック／山本美貴子 他／みらい 児童養護施設運営ハンドブック／厚生労働省 乳児院運営ハンドブック／厚生労働省</p>			
成績評価基準	<p>受講態度30%、提出物など40%、発表態度と内容30%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>施設実習実施のための必須科目であることを自覚してください。授業では、施設保育士の業務を理解し実践力を高めるために、事例討議や課題学習への積極的な取り組みを期待します。この科目の提出物は、実習施設に提出する大切なものが多く、期限を守り、確実に提出することが必要です。実習に向けて、自らの体調管理に努めるとともに、社会人としての自覚を高め、諸注意を厳守して行動することの必要性を認識し、より良い実習ができるよう学びましょう。実習では利用者とともに生活させていただくので、普段から社会で暮らしていく基本的な生活習慣について、考えながら行動していきましょう。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 施設実習の意義と目的
2 回	<施設の機能と役割 1> 養護系施設実習の意義と目的
3 回	<施設の機能と役割 2> 障害児系施設の理解
4 回	<実習計画の作成と事前準備> 実習計画と事前書類の作成等
5 回	<実習日誌の記入方法> 実習日誌の意義・記入の仕方
6 回	<実習直前指導> 実習生としての心構え・準備物
7 回	<実習体験の振り返り 1> 体験発表
8 回	<実習体験の振り返り 2> 自己評価と課題
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
【定期試験】 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育・教職実践演習 (幼稚園)	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	宿南久美子 國光みどり
授業概要	<p>これまでの授業や実習などで形成してきた教師・保育者としての資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努めます。</p> <p>さらに、専門職業人としての円滑なスタートができるように、保育・教育現場に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス等を通して、実践的指導力を身につけます。</p>			
授業科目の目的	<p>本授業では、幼稚園教諭・保育士の養成課程で学んできた知識と保育・教育実習等で得られた実践力の統合を図り、教師・保育士としての使命感や責任感のある実践的指導力を身につけていきます。また、専門職業人としての研修の必要性和自己研鑽に努める自覚をもち、人を教える専門家としての生活の円滑なスタートを目指すことを目的とします。</p>			
学習成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師・保育士としての資質・能力とは何か、また教員として働く意味や使命感・責任感について再確認し高めることができるようにします。 2. 教師・保育士に求められる社会性や対人関係力を高めることができるようにします。 3. 教師・保育士としての実践的な指導力を保育カンファレンス等を通して身につけることができるようにします。 			
テキスト	保育・教職実践演習／上長 然・國光みどり／豊岡短期大学			
参考書	幼稚園教育要領／文部科学省／フレーベル館 幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説／内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館			
成績評価基準	定期試験60%、授業態度・グループワークへの参加状況40%で、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	<p>本授業は、教職課程の総まとめに位置づけられています。</p> <p>本授業を通して自らの状況を把握し、克服すべき点を意識し、さらに習得すべき点は習得し、よりよい教員になるための授業にしていきましょう。予習・復習を心がけ意欲的に参加し、予習・復習も心掛けてください。</p>			
その他				

授業内容進行表

1 回	<オリエンテーション> 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2 回	<教師という職業1> 教職の意義、教師にもとめられる資質と能力
3 回	<教師という職業2> 「教師」「保育者」になる
4 回	<保育者としての学級経営1> 学級とは、学級担任の役割
5 回	<保育者としての学級経営2> 課題のある子どもへの対応
6 回	<保育者としての学級経営3> 発達に遅れのある子どもへの対応
7 回	<保育者としての学級経営4> 保育者と保護者
8 回	<保育者としての学級経営5> 人権教育の観点からの保育
9 回	<特別支援への理解と対応> 特別支援教育と教師・保育者における役割と支援
10 回	<保育カンファレンス1> 生きる力を育てる保育－まなび－
11 回	<保育カンファレンス2> 生きる力を育てる保育－かかわり－
12 回	<保育カンファレンス3> 生きる力を育てる保育－いのち－
13 回	<信頼される保育者> 危機管理と危機対応
14 回	<保幼小連携> 幼保小のなめらかな接続のために
15 回	<学習のまとめ> 自己の振り返り、今後に向けての課題
【定期試験】 (有) ・ 無	

所 版
有 権

平成30年度 授業概要

平成30年4月1日発行 (非売品)

編 集 兼 者 豊 岡 短 期 大 学

〒668-8580 兵庫県豊岡市戸牧160番地
発 行 所 豊 岡 短 期 大 学
電話 (0796) 22-6361

印 刷 所 喜 多 見 印 刷 株 式 会 社
豊岡市中陰546番地の2
電話 (0796) 23-3685(代)



学籍 番号		氏 名	
----------	--	--------	--